

蕎
麦
田
遺
跡

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第238集

蕎 麦 田 遺 跡

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
第238集

2026

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第238集

そ ぼ た
蕎 麦 田 遺 跡

2026

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

岩倉市は濃尾平野東部に位置します。近年は名古屋近郊の市街地となっていますが、東部から南側に流れる五条川、北部の青木川によって形成された沖積地が広がり、昭和40年代の高度成長期以前は田園地帯でありました。このような風土で縄文時代から近世まで人間活動は活発で痕跡が市内各所に残されています。蕎麦田遺跡周辺には縄文時代から古代まで各時期の遺跡が所在し、地域の歴史の歩みを示しています。西北出遺跡では縄文時代の貯蔵穴が発見され、各種食用の木の実が出土しています。近在の岩倉市史跡公園には当地域で弥生時代中期土器の標識となる大地遺跡があります。古墳時代以降も前期の方墳が確認された西出古墳、古代の寺院址としては長福寺廃寺、御土井廃寺、薬師堂廃寺などがあります。

本遺跡の調査は県道春日井一宮線の建設工事に伴うもので、新たな遺跡が発見されました。これにより地域の歴史に関する知見が一層深まることを願うものです。

最後に発掘調査に当たりまして御理解、御協力をいただきました地元の方々をはじめ、関係者並びに関係機関に御礼申し上げます。

令和8年3月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 佐藤 正美

例言

1. 本書は愛知県岩倉市大地町に所在する蕎麦田遺跡（遺跡番号 110056）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は道路改良工事（交付金）（主）春日井一宮線に伴うもので、愛知県建設局道路建設課より愛知県県民文化局を通じて委託され、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。発掘調査の現場作業は株式会社島田組に業務委託した。整理作業及び報告書作成は本センターが行った。
3. 調査期間は令和 5 年 10 月～令和 6 年 1 月である。
4. 調査は酒井俊彦が担当した。
5. 調査に際して以下の関係機関から指導・協力を受けた。
愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県県民文化局・愛知県一宮建設事務所
6. 遺物実測と実測図トレースについては株式会社イビソクに業務委託した。
7. 本書の編集と本文の執筆は酒井俊彦が行った。
8. 今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第 VII 系に基づくものであり、海拔標高は T.P.（東京湾平均海面高度）による。
9. 調査記録（図面・写真資料・日誌等）は本センターが保管している。
10. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターが保管している。

目次

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過

- 1.調査の経緯..... 1
- 2.調査の経過..... 2

第2節 遺跡の立地と環境

- 1.地理的環境..... 2
- 2.歴史的環境..... 3

第2章 遺構

- 第1節 23A区..... 7
- 第2節 23B区..... 8
- 第3節 23C区..... 9
- 第4節 23D区..... 9
- 第5節 23E区..... 10
- 第6節 23F区..... 10
- 第7節 23G区..... 11

第3章 遺物

- 第1節 弥生時代..... 25
- 第2節 古墳時代..... 25
- 第3節 古代..... 26
- 第4節 中世・戦国時代..... 26

第4章 総括 28

挿図目次

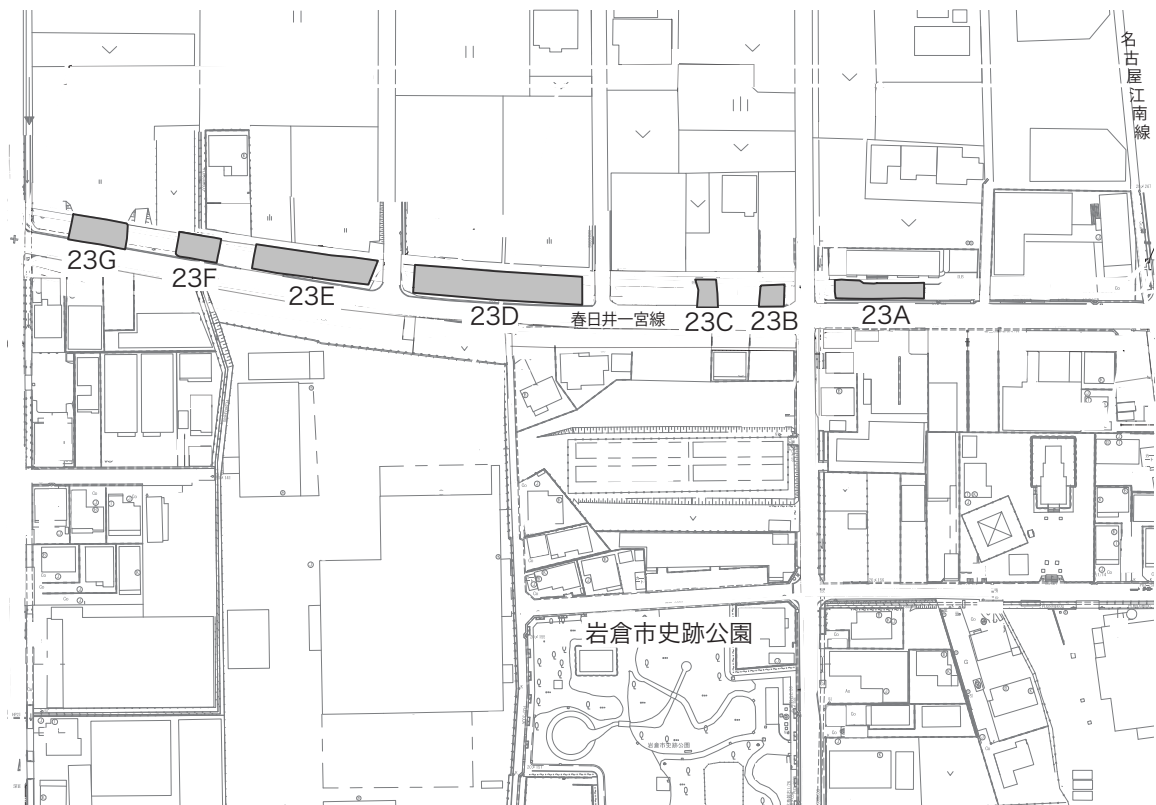
第1図 調査区位置図(1/2000).....	1
第2図 調査工程.....	2
第3図 遺跡位置図.....	3
第4図 周辺の地形.....	4
第5図 周辺の遺跡.....	5
第6図 23A区南壁セクション(1/100).....	12
第7図 23A区遺構図(1/200).....	12
第8図 005SK(1/50).....	12
第9図 006SK(1/50).....	12
第10図 013SK(1/50).....	13
第11図 016SK(1/50).....	13
第12図 003SD・004SD(1/50).....	13
第13図 008SD(1/50).....	14
第14図 001SE(1/50).....	14
第15図 002SE(1/50).....	15
第16図 23B区南壁・東壁セクション(1/50).....	16
第17図 23B区遺構図(1/100).....	16
第18図 23C区南壁・西壁セクション(1/50).....	17
第19図 23C区遺構図(1/100).....	17
第20図 23D区東壁セクション・南壁セクション(1/100).....	18
第21図 23D区遺構図(1/250).....	19
第22図 023SD(1/50).....	19
第23図 23E区西壁セクション・南壁セクション(1/100).....	20
第24図 23E区遺構図(1/200).....	20
第25図 23F区南壁セクション・東壁セクション(1/100).....	21
第26図 23F区遺構図(1/200).....	21
第27図 033SD(1/50).....	22
第28図 035SD(1/50).....	22
第29図 034SX(1/50).....	22
第30図 23G区南壁セクション・西壁セクション(1/100).....	23
第31図 23G区遺構図(1/200).....	23
第32図 038SD(1/50).....	24
第33図 042SD(1/50).....	24
第34図 出土土器1(1/4).....	26
第35図 出土土器2(1/4).....	27
第36図 周辺地形と調査区.....	29

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過

1. 調査の経緯

蕎麦田遺跡は愛知県岩倉市大地町蕎麦田・蔵本に所在する。本遺跡の調査は道路改良工事（交付金）（主）春日井一宮線に伴う事前調査として、愛知県民文化局を通じて愛知県建設局道路建設課より委託を受けて実施した。調査期間は令和5年10月から令和6年1月である。本調査に先立ち平成29年6月、平成30年12月、令和2年11月に愛知県埋蔵文化財調査センターによる遺跡範囲確認の試掘調査が行われている。第1回調査では本調査のD区からF区の区域と県道春日井一宮線を挟んだ南側の区域で4カ所の試掘トレンチを設定し、計16㎡の調査を行った。その結果、溝などが確認され、弥生時代から中世の遺物が出土した。第2回の調査は県道の北側で本調査区の西側から本調査区内にかけてと、県道南側で本調査区より西側にトレンチ12カ所48㎡の試掘調査を行い、弥生時代後期と中世の遺物が確認された。第3回の調査は県道北側で本調査区西側から東側にかけて第2回調査トレンチ間などを対象として、16カ所32㎡の試掘調査を行った。この結果、古墳時代前期から近世の遺物が出土し、古墳時代前期の遺構などが確認された。試掘調査の結果より県道造成による削平は造成以前の旧耕作土面下の遺構面まで達していないと推定された。第3回の試掘範囲の西半分には遺構・遺物が認められず、東半部から春日井一宮線と県道63号名古屋江南線との交差点付近までが本遺跡の範囲として調査の対象となった。



第1図 調査区位置図 (1/2000)

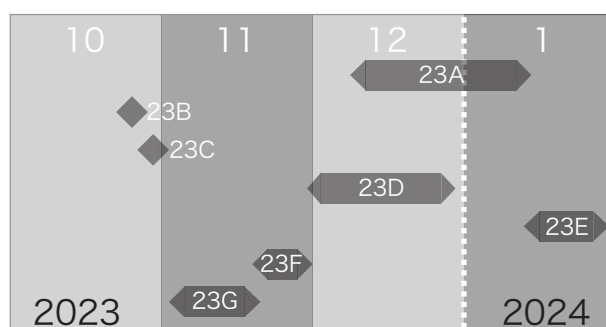
2. 調査の経過

遺跡の調査対象はほぼ東西に走る現県道に沿う北側約 7m の範囲で、県道の拡幅予定地である。調査区域の北縁に沿って東西に下水管が設置され調査区内北辺約 3m 幅は調査不能であった。遺跡の調査区域は県道春日井一宮線に直行する南北道路によって分断され、県道名古屋江南線との交差点に接する東部、中央部東側、中央部西側、西部に分けられる。東から西に向けて調査区は東部に 23A 区 (204 m²)、中央部東側に 23B 区 (59 m²)、23C 区 (48 m²)、中央部西側に 23D 区 (330 m²)、西部に 23E 区 (245 m²)、23F 区 (98 m²)、23G 区 (111 m²) の調査区を設定した。調査区は県道が南側に移動した旧道路部分で、アスファルトを撤去したため採石、コンクリートなどの道路基礎が表面に露出した状況である。道路基礎・盛り土の下層は道路敷設前の旧地表土、水田などの耕作土などである。調査範囲の北側は大部分水田であり、一部宅地ないしは駐車場である。調査期間は令和 5 年 10 月から令和 6 年 1 月である。各調査区の調査時期は B 区 (10 月下旬) C 区 (10 月下旬) G 区 (11 月上・中旬) F 区 (11 月中・下旬) D 区 (12 月) A 区 (12 月中旬～1 月中旬) E 区 (1 月中・下旬) である。A 区は Aa 区 (東半) と Ab 区 (西半)、D 区は Da 区 (東半) と Db 区 (西半)、E 区は Ea 区 (西半) と Eb 区 (東半) に分割して調査を実施した (第 2 図)。総調査面積は 1098 m² である。

第 2 節 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

本遺跡が所在する岩倉市は愛知県西部に所在し、濃尾平野東部に位置する (第 3 図)。濃尾平野は東を尾張丘陵、西を養老山地、北を飛騨高地・両白山地に囲まれ、南は伊勢湾に面する日本有数の広さの平野である。木曾川を境として岐阜県側は美濃平野、愛知県側は尾張平野と呼ばれる。尾張平野は東部の丘陵部、その西側の洪積台地と西部の沖積平野に別れる。岩倉市域は尾張平野北部を南西に流下する木曾川のおよび分流する小河川によって形成された扇状地、自然堤防、後背湿地からなる沖積地に所在する。五条川は市域の東部を南流し南端で西流し、市の南辺をなす。五条川沿いには市域北部から南辺まで自然堤防が南北方向に広がる。市街地の主要部分がこの部分にあり、南北に名鉄線が走る。西部には南流する青木川に繋がる自然堤防が広がる。この二つの自然堤防間の沖積地中央部には蕎麦田遺跡が立地する自然堤防が形成されている。尾張平野の北部は犬山扇状地となる。これは犬山城址を扇頂とし岐阜市から一宮市から岩倉市に扇端がわたり、半径 12～13km に及ぶ。岩倉市北端八剣町はこの扇状地上にある。五条川の左岸には市域に接して犬山から小牧に伸びる小牧台地が所在する。小牧台地は南西端の鳥居松面、中央の小牧面、熱田面の洪積台地によって構成される。



第 2 図 調査工程

2. 歴史的環境

本遺跡は岩倉市南西部に位置する。この地域の地形は自然堤防と後背湿地よりなる。遺跡周辺の自然堤防は五条川沿いの南北に走るもの、遺跡西側で南西から南流する青木川を中心に広く展開するもの、およびこの二つの間に挟まれる自然堤防からなる。本遺跡は大部分この自然堤防上に所在する(第4・5図)。

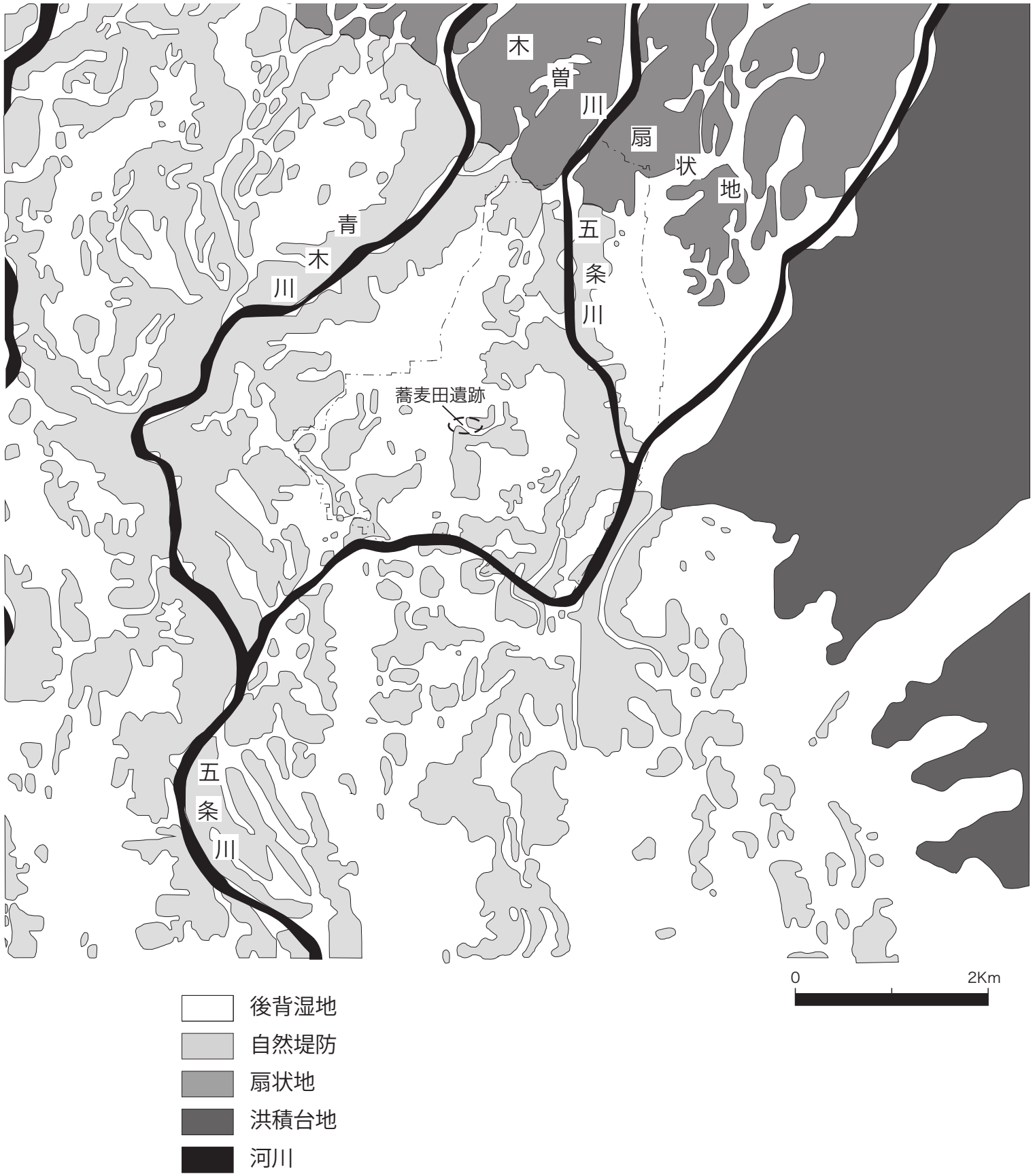
本遺跡の周辺には旧石器時代の遺跡は存在せず、縄文時代中期から確認される。本遺跡の南約400mにはノンベ遺跡・野辺遺跡(34・33)が所在する。遺物は中期後半の土器群と石器が出土している。遺跡東方約300mには西北出遺跡(29・30)が所在する。縄文時代後期の遺構遺物が確認されている。遺構として貯蔵穴・溝状遺構が確認され、包含層と遺構内より後期前半の土器群、石器類、各種の木の実などが出土している。この時期の遺物は穴田遺跡(27) ノンベ遺跡(34) 大地遺跡(31)で確認されている。これらの遺跡は蕎麦田遺跡の所在する自然堤防および近接する後背湿地に存在する。縄文晩期の遺跡としては八刃遺跡がある。遺跡は北東約2.5kmの五条川沿いの木曾川扇状地上に立地する。この地点は扇状地の末端で自然堤防に接しており、五条川が近辺を南流している。主な遺構遺物として条痕文土器の土器棺群が確認されている。

市域の弥生時代の遺跡は前期から確認され、本遺跡の周囲に分布する。野辺遺跡・ノンベ遺跡からは遠賀川式土器が出土している。中期の遺跡として本遺跡南百数十mに大地遺跡が所在する。戦後、大地式土器と呼称される土器が見つかった。昭和26年に発掘調査が行わ

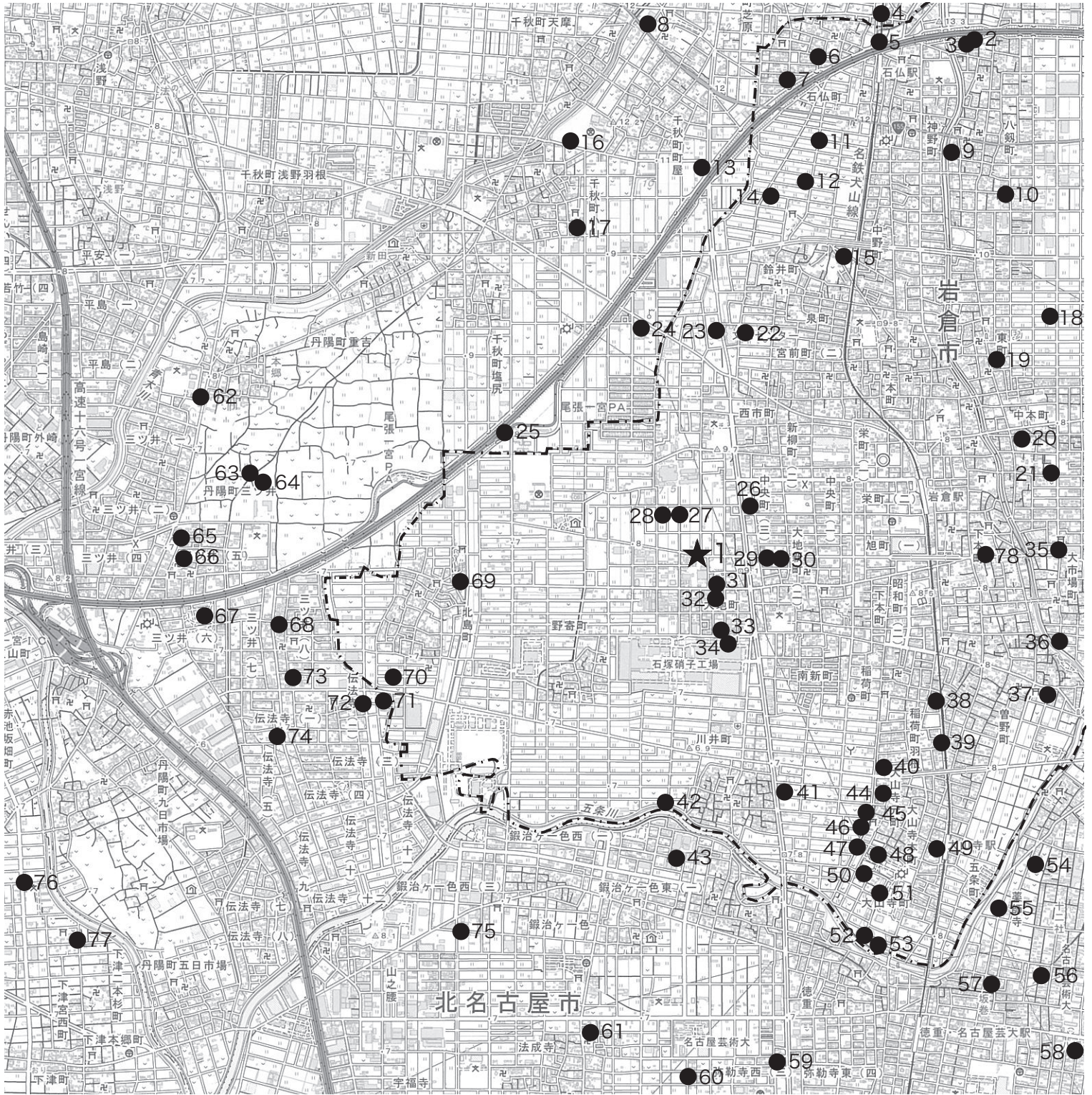


第3図 遺跡位置図

国土地理院発行 1/200000 地勢図「名古屋」「豊橋」使用



第4図 周辺の地形



国土地理院発行 1/25000 地形図「一宮」使用

- | | | | | | |
|----------|--------------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1 蕎麦田遺跡 | 14 立切遺跡 | 27 穴田遺跡 | 40 神宮寺古墳 | 53 西生田遺跡 | 66 六所遺跡 |
| 2 八刃遺跡 | 15 御山寺遺跡 | 28 乾出遺跡 | 41 寺山遺跡 | 54 村前遺跡 | 67 池之上遺跡 |
| 3 七面山古墳 | 16 一宮南高校平松遺跡 | 29 西北出 (B) | 42 薬師堂廃寺跡 | 55 十二社古墳 | 68 稻荷山古墳 |
| 4 長福寺廃寺 | 17 鹿取遺跡 | 30 西北出 (A) | 43 鍛冶ヶ一色遺跡 | 56 山浦遺跡 | 69 西道海戸遺跡 |
| 5 長福寺遺跡 | 18 中出口遺跡 | 31 大地遺跡 | 44 西出古墳 | 57 古井遺跡 | 70 前田遺跡 |
| 6 西土門遺跡 | 19 白山遺跡 | 32 葉広遺跡 | 45 西出遺跡 | 58 射矢重遺跡 | 71 北島白山遺跡 |
| 7 西広畑遺跡 | 20 古市場遺跡 | 33 野辺遺跡 | 46 吸田遺跡 | 59 弥勒寺廃寺跡 | 72 元屋敷遺跡 |
| 8 円長寺古墳 | 21 真光寺遺跡 | 34 ノンベ遺跡 | 47 石塚遺跡 | 60 神子前遺跡 | 73 伝法寺廃寺 |
| 9 大塚遺跡 | 22 法成寺遺跡 | 35 天神塚遺跡 | 48 前畑遺跡 | 61 法成寺遺跡 | 74 西大門遺跡 |
| 10 東郷前遺跡 | 23 下新田遺跡 | 36 居屋敷古墳 | 49 長畑遺跡 | 62 重吉城跡 | 75 高塚古墳 |
| 11 梅ノ木遺跡 | 24 蕪池遺跡 | 37 神清院古墳 | 50 高畑遺跡 | 63 東高龍遺跡 | 76 鎌倉街道周辺遺跡 |
| 12 岩塚遺跡 | 25 猫島遺跡 | 38 御土井廃寺跡 | 51 下流遺跡 | 64 飛所遺跡 | 77 下津遺跡 |
| 13 町屋遺跡 | 26 西町畑遺跡 | 39 国衙遺跡 | 52 小森遺跡 | 65 茂八杖遺跡 | 78 岩倉城跡 |

第5図 周辺の遺跡

れ、同 29 年に大地遺跡として愛知県指定史跡に指定されている。現在遺跡区域と周辺は平成 8 年に岩倉市によって買収され、史跡公園となっている。発掘調査によって竪穴建物 1 棟が確認されている。その他五条川沿いの自然堤防上には西町畑遺跡 (26)、曾野遺跡、ノンベ遺跡などがあり、中期土器である朝日式土器が出土している。弥生時代後期の遺跡としては曾野遺跡、白山遺跡 (19)、町畑遺跡、西道海戸遺跡 (69) 西広畑遺跡 (7) などがある。曾野遺跡、白山遺跡、町畑遺跡、西道海戸遺跡からは山中式土器、西町畑遺跡、西広畑遺跡では元屋敷式土器が出土している。

古墳時代の遺跡は集落跡と古墳とに別れる。集落跡は小森遺跡 (52)、西北出遺跡がある。前者では住居跡 2 棟、土坑などが確認されている。出土遺物として土師器類と鉄鏃、刀子などの鉄製品が出土している。後者から溝と土坑が確認され、土師器類が出土している。古墳としては七面山古墳 (3)、円長寺古墳 (8)、居屋敷遺跡 (36)、神清院古墳 (37)、西出古墳 (44)、十二社古墳 (55)、稲荷山古墳 (68)、高塚古墳 (75) などがある。西出古墳は昭和 57 年に発掘調査が実施されている。方墳で正方形に巡る周濠が確認され、土師質円筒埴輪、須恵器類、土師器類が出土している。西出古墳以外は調査が行われておらず、実態は不明である。

古代の遺跡は寺院跡がある。寺院跡として長福寺廃寺跡 (4)、御土井廃寺跡 (38)、薬師堂廃寺跡 (42) がある。長福寺廃寺は 7 世紀中葉に建立され、奈良・平安時代まで存続する寺院である。心礎が確認され、瓦類、仏像が出土している。御土井廃寺の遺構としては柱穴、土坑、溝、瓦溜りなどが確認され、各種瓦類、埴仏が出土している。白鳳時代の寺院である。薬師堂廃寺は心礎、礎石が確認されている。出土遺物として瓦類、金属器などが出土している。白鳳時代から奈良時代の寺院である。

中世・戦国時代遺跡としては岩倉城跡 (78)、鎌倉街道周辺遺跡 (76)、下津遺跡 (77) がある。岩倉城跡は 15 世紀後半から 16 世紀中葉の城跡として知られている。

参考文献

岩倉市史編纂委員会『岩倉市史 - 上巻』1985

(公財) 愛知県教育・スポーツ新興財団 愛知県埋蔵文化財センター『下新田遺跡』2015

第2章 遺構

第1節 23A区

1. 基本層序

23A区は調査区域の東端に位置する。調査時は県道春日井一宮線の北側歩道予定地である。北側は住宅地となる。調査区南半は下水道の攪乱である。1970年代の現道造成以前は耕作地である。現表土は第1層現道基礎と第2層現道盛り土で深さ0.3m、第3層は数センチの暗黒褐色シルト層で下層が基盤の明褐色砂層となる。この面で遺構検出を行った(第6図)。

2. 遺構

本調査区において土坑7基、溝7条、井戸2基を確認した。主に古墳時代前半と近世以降である。

(1) 古墳時代

a. 土坑

005SK(第8図) 平面がほぼ円形の土坑である。直径約1.0m、深さ0.4mである。埋土は暗褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。

006SK(第9図) 攪乱によって切られる。残存長1.1m、深さ0.2mである。埋土は黒褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。

013SK(第10図) 南半は攪乱によって消失する。残存長約1.2m、深さ0.2mである。埋土は黒褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。切り合いから012SDより古い。

014SK(第7図) 北半は調査区外である。残存長0.9m、深さ0.4mである。埋土は黒褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。

015SK(第7図) 北半は調査区外である。残存長1.0m、深さ0.4mである。埋土は黒褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。

016SK(第11図) 南西から北東方向をとる楕円形の土坑である。長軸約2m、単軸1.0m、深さ0.4mである。埋土は黒褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。切り合いから古墳時代溝012SDより古く、長軸は同方向をとる。

b. 溝

003SD(第12図) 北東から南西方向にやや湾曲して走る。残存長3.6m、深さ約0.3m、幅1.1mである。埋土は黒色シルトが主体である。土師器壺、高杯、器台などが出土している。

004SDより新しい時期である。

004SD(第12図) 浅い掘り込み状で003SDが中央に走り、同方向に走る。残存長約4m、最大幅約3.5m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色シルトが主体である。土師器台付甕脚部などが出土した。

008SD(第13図) ほぼ南北方向の溝である。残存長2.2m、幅1.1m、深さ0.2mである。埋土は黒褐色シルトが主体である。土師器台付甕などが出土している。

010SD(第7図) 北東から南西方向に走る。残存長3.4m、幅0.5m、深さ0.1mである。埋土は黒褐色シルト主体である。遺物は出土していない。

011SD(第7図) 北東から南西方向に走る。残存長2.2m、幅1.0m、深さ0.4mである。埋土は黒褐色シルト主体である。遺物は出土していない。

012SD(第7図) 北東から南西方向に走る。残存長4.5m、幅0.6m、深さ0.1mである。埋土は黒褐色シルト主体である。遺物は出土していない。

(2) 近世以降

調査区東端に井戸 2 基が近接して確認された。調査区の基盤は明褐色砂層であり、この部分は灰褐色粗砂となる。

001SE (第 14 図) 遺構北半は調査区外である。直径 2.1m、検出面である基盤粗砂層から深さ 0.4m となる。粗砂を含む黒色～黒褐色シルトを主体とする。旧耕作土下の褐色シルト下面から掘り込まれ、掘り込み面からの深さは 0.9m である。近世以降の陶器と瓦がごく少量出土した。基盤層の湧水はない。構造物は検出されず、素掘りの取水施設と推定される。

002SE (第 15 図) 遺構東半が調査区外である。直径 1.5m、検出面から深さ 0.4m となる。旧耕作土下から掘り込まれ、掘り込み面からの深さ 1.0m である。遺物は出土してない。掘り込みの層位から近世以降の時期と考える。基盤層の湧水はない。001SE と同様に構造物は検出されず、素掘りの取水施設と推定される。

(3) その他

007SK (第 7 図) 平面方形で長軸を東北方向にとる。長軸 1.0m、単軸 0.6m、深さ 0.3m を測る。古墳時代土師器がわずか出土する。形状と方向から現代攪乱の可能性はある。

009SD (第 7 図) ほぼ南北に走る浅い溝である。残存長 2.3m、幅 0.4m、深さ 0.1m である。埋土は黒褐色シルトを主体とする。遺物は出土しない。方向性と掘り方の形状より、攪乱の可能性はある。

第 2 節 23B 区

1. 基本層序

工事により削平されて旧耕作土は遺存しない。現道造成以前は耕作地である。23A 区の南北道路を挟む西側部分の歩道予定地であり、北側は宅地である。基本層序は第 1 層現道基礎と第 2 層現道盛り土で深さ約 0.4m であり、この下層が基盤の淡黄色砂層となる。この面で遺構検出を行った。遺構面は現道工事によって削平されている (第 16 図)。調査区北半は下水道の攪乱である (第 17 図)。

2 遺構

土坑 4 基と溝 2 条を確認した。

(1) 中世

018SD (第 16 図) 東西方向の浅い溝である。残存長 4.0m、残存幅 0.4m、深さ 0.1m である。埋土は黒色シルトである。山茶碗片が数点出土する。

(2) その他

a. 土坑

019SK (第 17 図) 遺物が出土しないため時期不明である。長軸は東西方向となる。長軸 1.3m、単軸 0.8m、深さ 0.1m を測る。埋土は黒褐色シルトである。

020SK (第 17 図) 遺物が出土しないため時期不明である。攪乱によって大部分消失している。埋土は黒褐色シルトである。

021SK (第 17 図) 遺物が出土しないため時期不明である。長軸が東西方向である。残存長軸 0.9m、単軸 0.7m、深さ 0.2m を測る。埋土は黒色シルトである。

022SK (第 17 図) 遺物が出土しないため時期不明である。長軸が東西方向である。長軸 0.4m、単軸 0.2m、深さ 0.1m を測る。埋土は黒褐色シルトである。

b 溝

017SD (第 17 図) ほぼ南北に走る溝である。遺構の東側は調査区外である。残存長 3.0m、深さ 0.7m、幅は不明である。掘り方は急角度である。古墳時代土師器がわずかに出土したが、同時代の溝とは方向および掘り方が異なる。時期は不明である。

第 3 節 23C 区

1. 基本層序

現道造成以前は耕作地である。23B 区の西側に位置し、歩道予定地である。北側は宅地である。基本層序は第 1 層現道基礎、第 2 層現道盛り土で深さ約 0.5m、第 3・4 層は深さ 0.5m の湿地性の黒褐色シルトで下層が基盤層となる。(第 18 図) 調査区北半は下水道の攪乱である(第 19 図)。遺構が確認されず、旧地形では自然堤防に接する後背湿地部分であり、湿地が西に向かって緩やかに深くなる部分と考える。

2. 遺構

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第 4 節 23D 区

1. 基本層序

現道造成以前は耕作地である。23C 区の南北道路を挟んだ西の区画で、歩道予定地である。北側は水田である。第 1 層現道基礎、第 2 層現道盛り土深さ約 0.6m である。第 3 層～第 5 層は暗褐色・黒褐色シルトの旧水田耕作土で深さ 0.1～0.3m、一部旧畑耕作土である。旧耕作土下は調査区西半が 3 層の黒色・黒褐色シルト遺物包含層を挟んで黄灰色シルトの基盤層となり、調査区東半は深さ 0.2～0.3m 黒色シルトの包含層で、この下層は湿地性堆積層である。調査区東端において湿地性堆積層は上層から 1 層深さ 0.5m、2 層深さ 0.2m、3 層深さ 0.2m の黒色粘土層、4 層深さ 0.2m の暗オリーブ褐色シルトである。これらは無遺物層で植物性遺存物が多い。5 層は無遺物の暗オリーブ褐色シルトが約 1m 堆積し、下部は河川性の灰色粗砂層となる(第 20 図)。湿地性の堆積物層では湧水はなく、灰色粗砂層で湧水する。湿地性堆積層は調査区西半中央部から確認され、西から東に向けて緩やかに深くなる。最深部は確認されない。遺構は湿地性堆積層面では確認されず、堆積層西端の基盤層面で検出された。遺物は旧耕作土層とこれに接する湿地性堆積層上部から比較的多く出土した。

2. 遺構

古墳時代前半の溝 3 条を確認した。

023SD (第 22 図) 北西から南東方向の溝で中央部が V 字状に深くなる。残存長 6.7m、最大幅 1.5m、深さ 0.5m である。北から南に向けて深くなる。埋土は黒色シルトが主体である。遺物は甕、高杯などの土師器類が出土している。

024SD (第 21 図) 023SD に並行して北西から南東方向に走る。残存長 5.2m、幅 0.3m、深さ 0.2m である。埋土は黒色シルトが主体である。遺物は甕などの土師器類が出土している。

025SD (第 21 図) 023SD に切られる、浅い溝である。残存長 1.2m、深さ 0.1m である。埋土は黒色シルトである。遺物は出土していない。

第5節 23E区

1. 基本層序

現道造成以前は耕作地である。調査区西部で23D区の南北道路を挟んで西側となる。北側は水田耕作地である。第1層現道基礎、第2層現道盛り土で深さ0.4mである。第3層・第4層は黒褐色シルトを主体とする包含層であり、下層が灰黄色シルトの基盤層となる。遺構は基盤層面で検出した(第23図)。

2. 遺構

遺構は古墳時代前期と古代の溝を確認した。

(1) 古墳時代

026SD(第24図) ほぼ南北方向の溝である。残存長3.6m、深さ0.7mである。西半は調査区外であり、掘り方は断面V字形の可能性があり。埋土は暗褐色～黒褐色シルトで最下層は褐色粗砂である。遺物は土師器甕などが少量出土している。

028SD(第24図) 南北方向でやや北西に傾く溝である。残存長4.3m、幅1.1m、深さ0.4mである。埋土は上層は黒褐色シルト、下層は褐色粗砂が主体である。遺物は土師器甕など少量出土している。

(2) 古代

027SD(第24図) 南北方向でやや北東に傾く溝である。残存長3.9m、幅1.3m、深さ0.4mである。埋土は上層は暗褐色シルト、下層は褐色粗砂を主体とする。須恵器杯蓋が出土している。7世紀後半の時期である。

029SD(第24図) 南北方向でやや北東に傾く溝である。残存長4.4m、幅0.3m、深さ0.6mである。埋土は褐色粗砂を主体とする。遺物は出土しない。方向から古代とする。

030SD(第24図) 南北方向でやや北東に傾く溝である。残存長1.0m、幅0.4m、深さ0.2mである。埋土は暗褐色シルトを主体とする。遺物は出土しない。方向から古代とする。

032SD(第24図) 南北方向でやや北東に傾く溝である。残存長4.0m、幅1.6m、深さ0.2mである。埋土は黒褐色シルトを主体とする。灰釉陶器碗と山茶碗が出土している。11世紀代の時期である。

043SD(第24図) 南北方向でやや北東に傾く溝である。残存長4.0m、幅0.8m、深さ0.3mである。埋土は黒褐色シルトを主体とする。須恵器杯蓋が出土している。7世紀後半の時期である。

(3) その他

031SK(第24図) 古代以前の時期である。直径0.4m、深さ0.2mである。

第6節 23F区

1. 基本層序

現道造成以前は耕作地である。調査区西部の区画で23E区の西側となる。北側は宅地である。第1層現道基礎、第2層現道盛り土で深さ0.3mである。第3層～第5層は、黒褐色シルト主体の包含層で深さ0.4～0.5m、下層は灰色シルトの基盤層となる(第25図)。基盤層面で遺構検出を行った。

2. 遺構

古墳時代前半の溝および溝状遺構を確認した。

033SD(第27図) 南北方向の溝である。残存長3.4m、深さ0.2mである。埋土は黒褐色シルトを主体とする。遺物は土師器甕などが少量出土している。

034SX (第 29 図) やや北西に傾く南北方向の溝状遺構である。西半は調査区外となる。残存長 5.6m、深さ 0.4m である。埋土は上層が黒褐色シルト、下層は灰色粗砂である。土師器甕類が少量出土している。

035SD (第 28 図) やや北西に傾く南北方向の溝である。残存長 1.7m、幅 0.3m、深さ 0.1m である。埋土は上層は暗褐色シルト、下層はオリーブ褐色シルトである。遺物は出土していない。方向から古墳時代前半と考える。

036SD (第 26 図) や北西に傾く南北方向の溝である。残存長 0.9m、深さ 0.4m である。埋土は褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。方向から古墳時代前半と考える。

第 7 節 23G 区

1. 基本層序

現道造成以前は耕作地である。調査区西部の区画で 23F 区の西側となる。北側は水田耕作地である。第 1 層～第 3 層は現道基礎、現道盛り土で深さ 0.5m である。第 4 層～第 6 層は深さ 0.4m、黒褐色シルトが主体の包含層で、下層が灰黄色シルトの基盤となる (第 30 図)。基盤層面で遺構検出を行った。

2. 遺構

遺構は古墳時代前半と近世である。

(1) 古墳時代

038SD (第 32 図) 北東に傾く南北方向の溝である。残存長 5.2m、幅 0.8m、深さ 0.2m である。埋土は上層が黒褐色シルト、下層が極暗褐色シルトである。遺物は土師器類が比較的多く出土している。

(2) 近世

037SD (第 31 図) やや北東に傾く南北方向の溝である。残存長 4.1m、幅 2.7m、深さ 0.3m である。埋土は上層が暗オリーブ褐色シルト、下層が灰色粗砂である。遺物は近世中期の陶器が少量出土している。最下層は流水性の砂層であることから用水路ないしは小河川的な性格の遺構である。造成時の掘削痕が残る。中央部の攪乱から昭和期前半の遺物が出土し、この時期まで機能していたと推定される。

039SD (第 31 図) 切り合いから 037SD より新しい時期である。やや北東に傾く南北方向の溝で、037SD に接して同方向に走る。残存長 4.0m、幅 1.0m、深さ 0.1m である。埋土は黒褐色シルトである。遺物は出土していない。

(3) その他

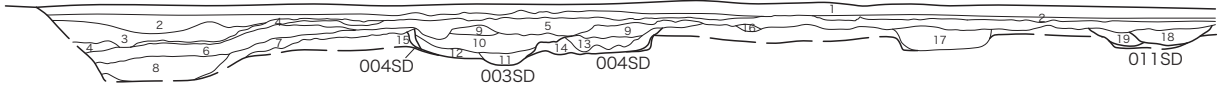
040SK (第 31 図) 比較的新しい土坑で近世以降の時期である。長軸 1.0m、単軸 0.7m、深さ 0.1m である。埋土は黒褐色シルトである。遺物は出土していない。

041SK (第 31 図) 040SK と同じく新しい時期の土坑である。残存長 0.4m、深さ 0.1m である。埋土は黒褐色シルトである。遺物は出土していない。

042SD (第 33 図) 調査区北東隅で検出された。西側のみが確認された。残存長 3.0m、深さ 0.5m である。埋土は黒褐色シルトを主体とする。遺物は古墳時代前期の土師器が少量出土する。古墳時代の遺構の可能性はあるが、方向・掘り方から、これ以降の時期と推定する。

SPA
L=9.0m

L=9.0m



SPA
L=7.0m
L=9.0m

SPA'
L=9.0m

L=7.0m



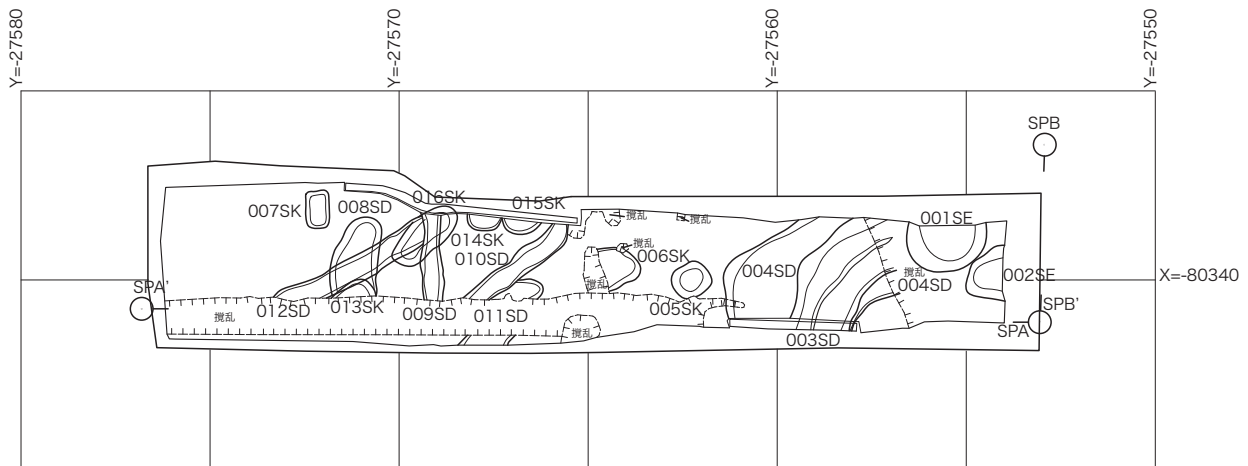
L=7.0m

SPA'
L=7.0m

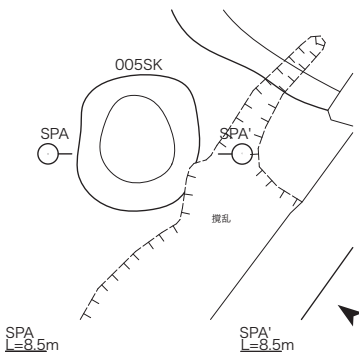


- 1:現道基礎 砕石
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:攪乱 砕石
- 4:5Y2/2 オリーブ黒色シルト
- 5:10YR3/3暗褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトブロックを少し含む
- 6:2.5Y3/2黒褐色シルト
- 7:2.5Y3/2黒褐色シルト 2.5Y7/3浅黄色粗粒砂を含む
- 8:2.5Y3/2黒褐色シルト 2.5Y7/3浅黄色粗粒砂を多く含む
- 9:7.5YR2/1黒色シルト
- 10:10YR2/2黒褐色シルト 10YR6/6明黄褐色粗粒砂を含む
- 11:7.5YR2/1黒色シルト 10YR6/6明黄褐色粗粒砂を少し含む
- 12:7.5YR2/1黒色シルト 10YR6/6明黄褐色粗粒砂を多く含む
- 13:7.5YR2/1黒色シルト 10YR6/6明黄褐色粗粒砂を多く含む
- 14:10YR6/6明黄褐色粗粒砂 7.5YR2/1黒色シルトを少し含む
- 15:10YR6/6明黄褐色粗粒砂 7.5YR2/1黒色シルトを含む
- 16:7.5YR2/1黒色シルト 10YR6/6明黄褐色粗粒砂を含む
- 17:10YR3/3暗褐色粗粒砂
- 18:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 19:7.5YR3/2黒褐色シルト 2.5Y4/3オリーブ褐色粗粒砂を含む
- 20:7.5YR4/3褐色シルト

第6図 23A区南壁セクション (1/100)



第7図 23A区遺構図(1/200)



SPA
L=8.5m

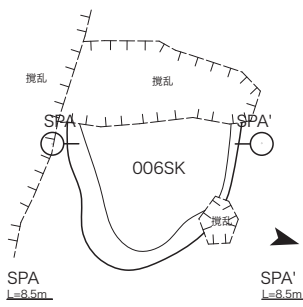
SPA'
L=8.5m



- 1:7.5YR2/1黒褐色シルト
- 2:7.5YR3/3暗褐色シルト 10YR6/6明黄褐色粗粒砂を含む
- 3:10YR3/3暗褐色シルト 10YR6/6明黄褐色粗粒砂を多く含む

第8図 005SK(1/50)

0 1/50 1m



SPA
L=8.5m

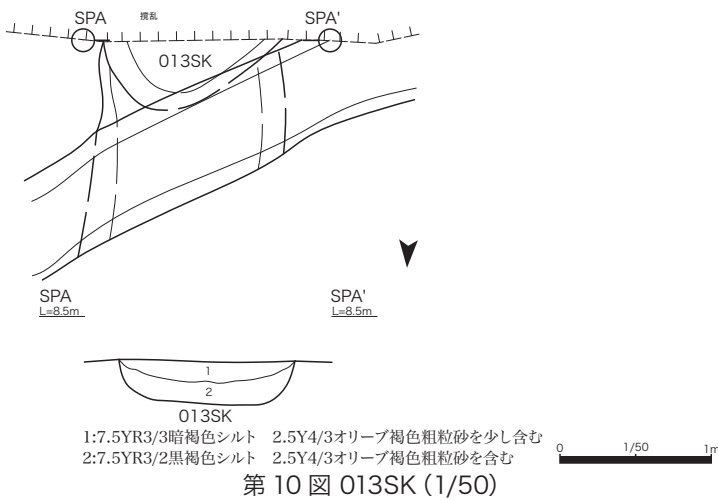
SPA'
L=8.5m



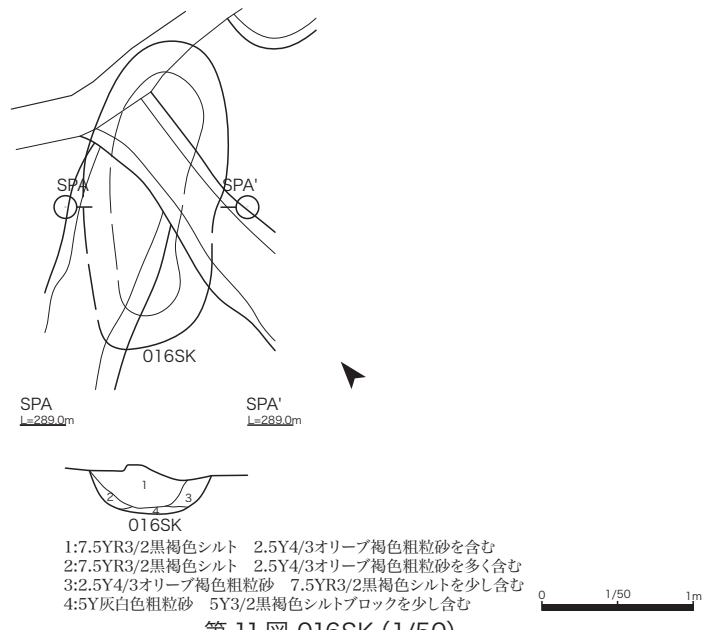
- 1:10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/8黄褐色粗粒砂を含む
- 2:10YR5/8黄褐色粗粒砂 10YR3/2黒褐色シルトを少し含む

第9図 006SK(1/50)

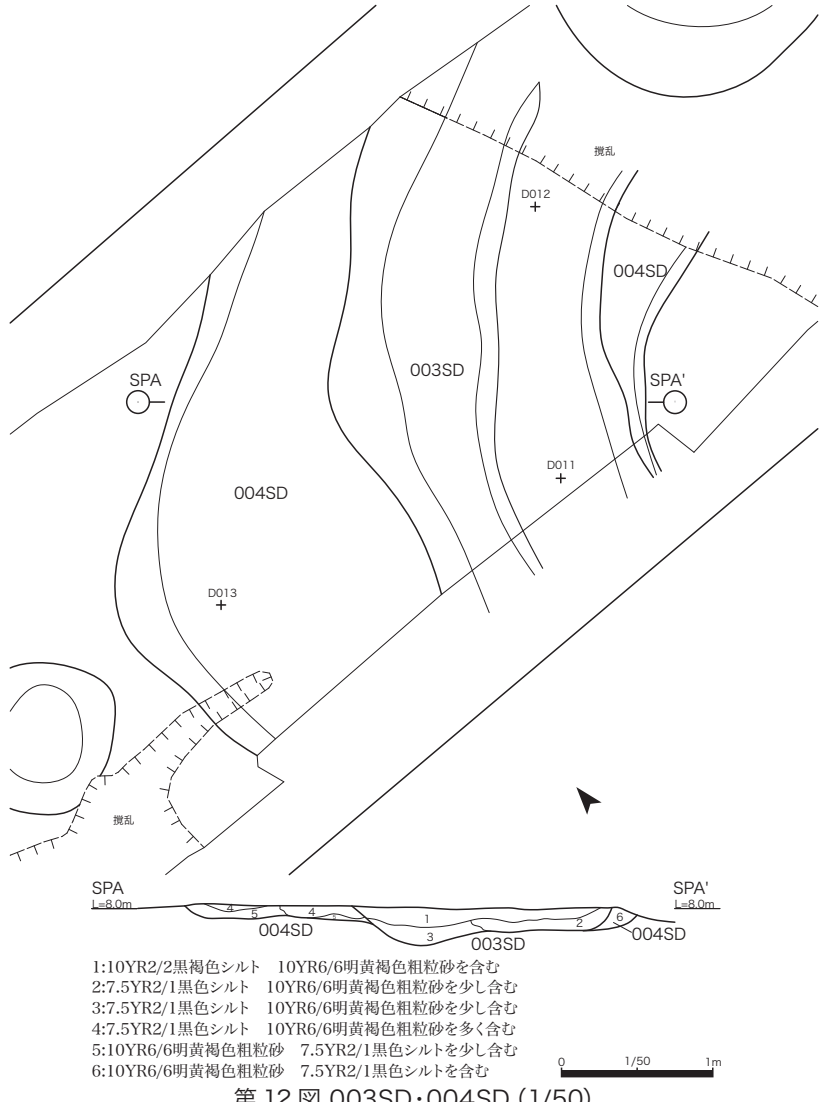
0 1/50 1m



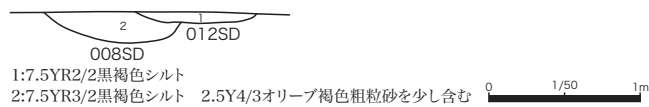
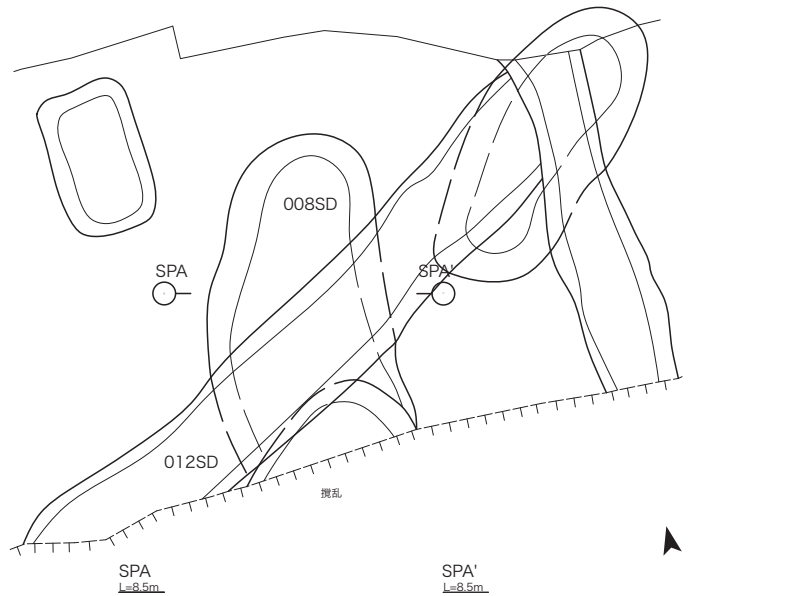
第 10 図 013SK (1/50)



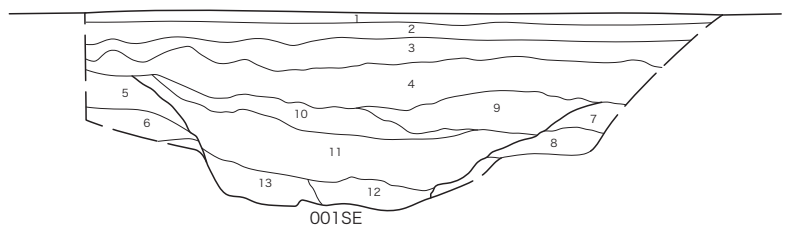
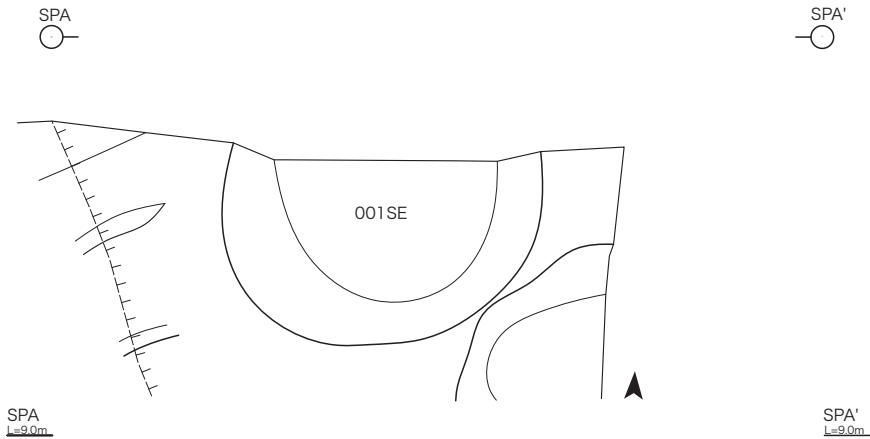
第 11 図 016SK (1/50)



第 12 図 003SD・004SD (1/50)

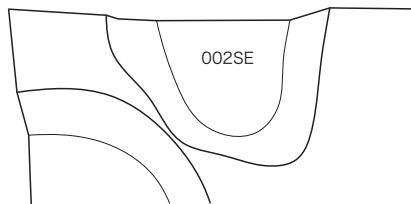


第13図 008SD(1/50)



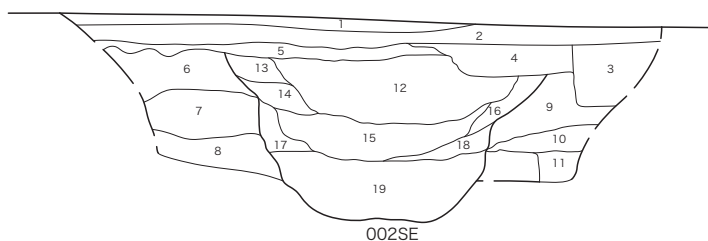
- 1:10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 現表土
- 2:現道基礎 砕石
- 3:10YR4/1 褐灰色シルト 旧耕作土
- 4:2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト
- 5:10YR3/3暗褐色シルト
- 6:2.5Y3/1黒褐色シルト
- 7:10YR3/3暗褐色シルト
- 8:10YR3/2黒褐色シルト
- 9:10YR2/1黒色シルト 10YR3/2黒褐色シルト粒を多く含む
- 10:10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルト粒を少し含む
- 11:10YR3/3暗褐色シルト
- 12:7.5YR3/2黒褐色シルト 10YR7/2にぶい黄褐色粗粒砂を多く含む
- 13:10YR3/3暗褐色シルト 10YR7/2にぶい黄褐色粗粒砂を多く含む

第14図 001SE(1/50)



SPA
L=9.0m

SPA'
L=9.0m



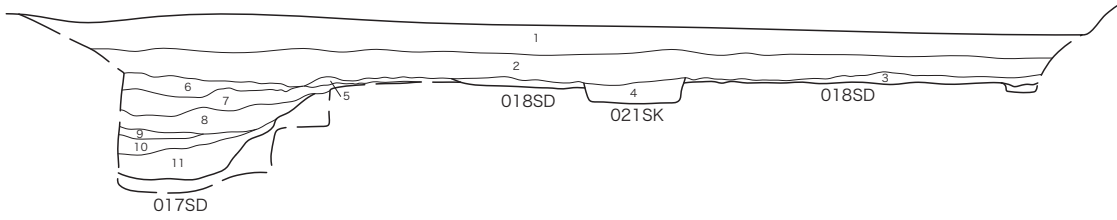
- 1:現表土
- 2:現道基礎 砕石
- 3:攪乱 砕石
- 4:攪乱
- 5:10YR4/1 褐灰色シルト 旧耕作土
- 6:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト
- 7:10YR3/3 暗褐色シルト
- 8:10YR3/2 黒褐色シルト
- 9:5Y2/2 オリーブ黒色シルト
- 10:2.5Y3/2 黒褐色シルト
- 11:2.5Y3/2 黒褐色シルト 2.5Y7/3 浅黄色粗粒砂を多く含む
- 12:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 2.5Y3/2 黒褐色シルトブロックを少し含む
- 13:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 2.5Y3/2 黒褐色シルトシルトブロックを少し含む
- 14:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト
- 15:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 7.5YR5/8 明褐色粘土ブロックを少し含む
- 16:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 2.5Y3/2 黒褐色シルト粒を多く含む
- 17:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 7.5YR2/1 黒色シルト粒を多く含む
- 18:5Y2/2 オリーブ黒色シルト 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルトを含む
- 19:2.5Y3/2 黒褐色シルト 2.5Y7/3 浅黄色粗粒砂を多く含む



第 15 図 002SE (1/50)

SPA
L=9.0m

SPA'
L=9.0m



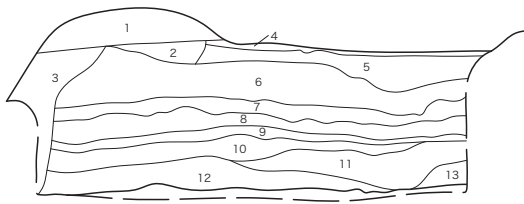
L=7.0m

L=7.0m 0 1/50 1m

- 1:現道基礎
- 2:現道盛土
- 3:7.5YR2/1黒色シルト
- 4:10YR黒色シルト炭粒をわずかに含む
- 5:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 6:7.5YR3/3暗褐色細砂
- 7:7.5YR2/1黒色シルト
- 8:5YR2/2黒褐色細砂
- 9:7.5YR2/1黒色シルト
- 10:7.5YR2/3極暗褐色細砂
- 11:10YR2/2黒褐色シルト 2.5Y8/3淡黄色粗砂を多く含む

SPB
L=9.0m

SPB'
L=9.0m

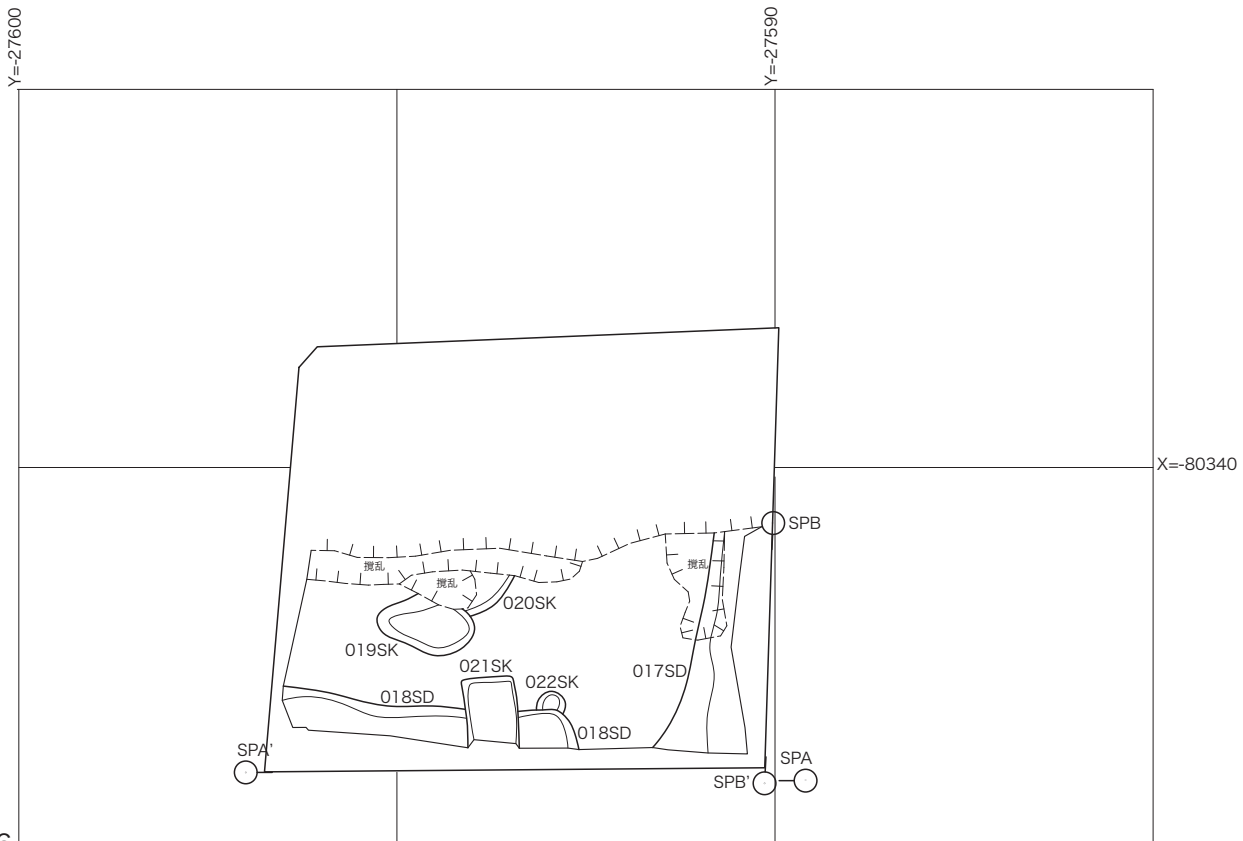


L=7.0m

L=7.0m 0 1/50 1m

- 1:7.5YR3/3暗褐色シルト 現表土
- 2:7.5YR4/3褐色シルト
- 3:旧水路廃棄埋土
- 4:現道基礎
- 5:現道盛土
- 6:7.5YR3/3暗褐色細砂
- 7:7.5YR2/1黒色シルト
- 8:5YR2/2黒褐色細砂
- 9:7.5YR2/1黒色シルト
- 10:7.5YR2/2暗褐色細砂
- 11:7.5YR2/3極暗褐色細砂
- 12:7.5YR2/2黒褐色シルト 2.5Y8/3淡黄色粗砂を多く含む
- 13:10YR2/2黒褐色シルト 2.5Y8/3淡黄色粗砂を多く含む

第16図 23B区南壁・東壁セクション (1/50)

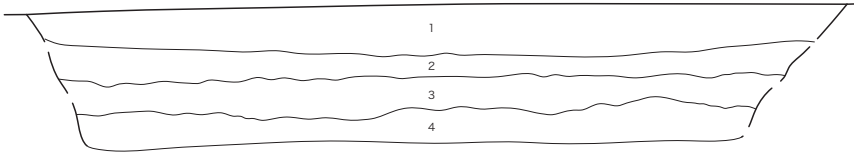


16

第17図 23B区遺構図 (1/100)

SPA
L=9.0m

SPA'
L=9.0m



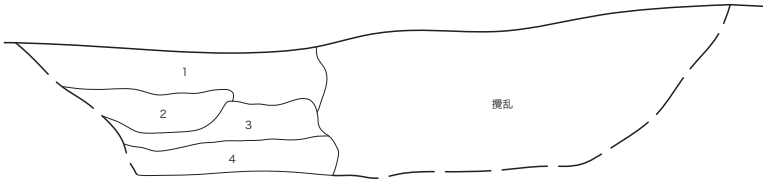
L=7.0m

L=7.0m 0 1/50 1m

- 1:現道基礎
- 2:現道盛土
- 3:10YR2/2黒褐色シルト・細砂 炭粒をわずかに含む 湿地性土
- 4:7.5YR2/2黒褐色シルト 5Y4/3暗オリーブ色シルトを少し含む 湿地性土

SPB
L=9.0m

SPB'
L=9.0m

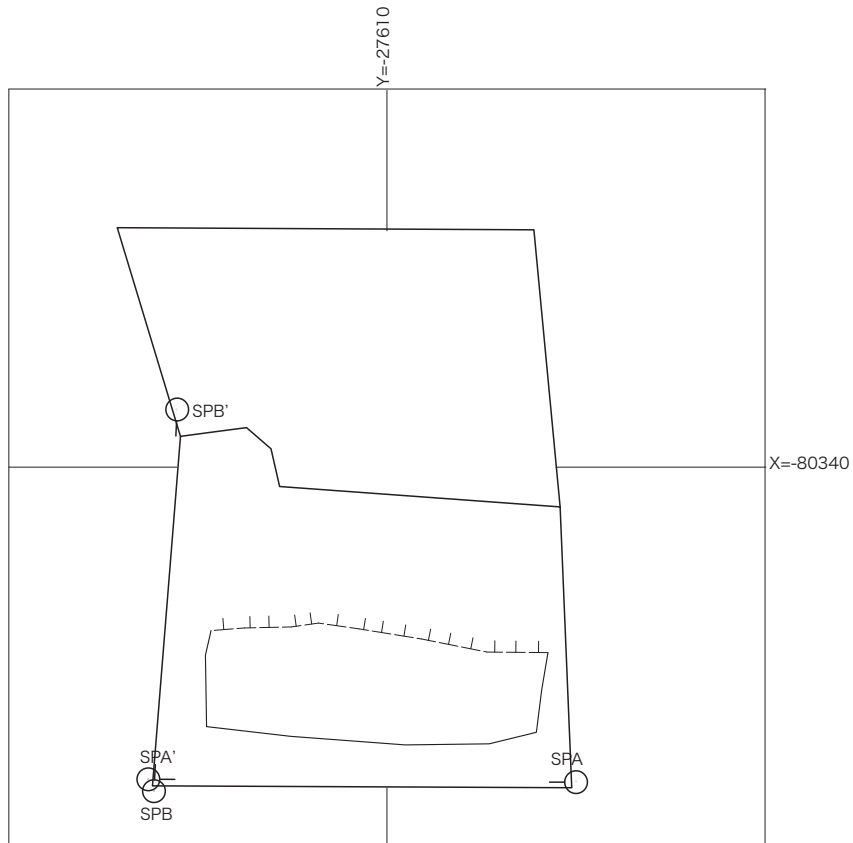


L=7.0m

L=7.0m 0 1/50 1m

- 1:現道基礎
- 2:現道盛土
- 3:10YR2/2黒褐色シルト・細砂 炭粒をわずかに含む 湿地性土
- 4:7.5YR2/2黒褐色シルト 5Y4/3暗オリーブ色シルトを少し含む 湿地性土

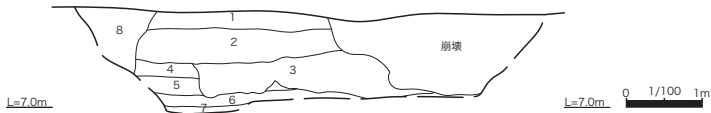
第 18 図 23C 区南壁・西壁セクション (1/50)



第 19 図 23C 区遺構図 (1/100)

SPA
L=9.0m

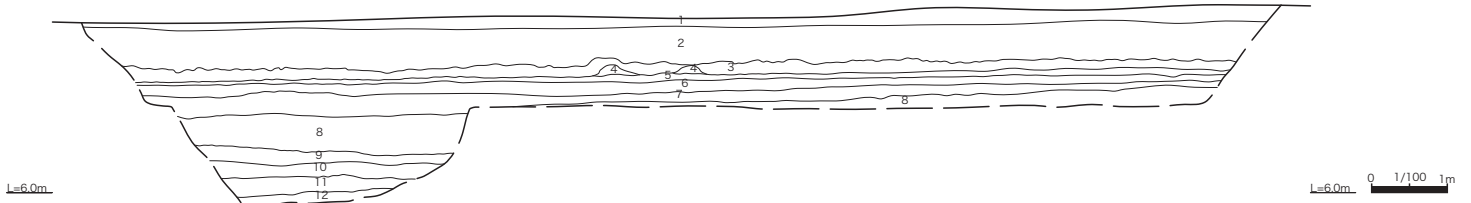
SPA'
L=9.0m



- 1:現道基礎 砕石
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:攪乱 用水路跡
- 4:10YR3/1黒褐色シルト 旧耕作土
- 5:7.5YR2/2黒褐色シルト 旧耕作土
- 6:7.5YR1.7/1黒色シルト
- 7:7.5YR2/1黒色シルト
- 8:現用水路埋土

SPB
L=9.0m

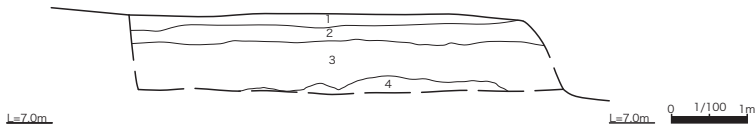
SPB'
L=9.0m



- 1:現道基礎 砕石
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:7.5YR2/3極暗褐色シルト 旧耕作土
- 4:10YR3/2黒褐色シルト 旧耕作土 畦畔
- 5:7.5YR3/2黒褐色シルト 旧耕作土
- 6:7.5YR3/1黒褐色シルト 旧耕作土
- 7:7.5YR1.7/1黒色シルト
- 8:7.5YR2/1黒色粘土
- 9:10YR1.7/1黒色粘土 5YR1.7/1黒色粘土ブロックを含む
- 10:5YR1.7/1黒色粘土 2.5Y3/3暗オリブ褐色シルトを少し含む
- 11:2.5Y3/3暗オリブ褐色シルト 5YR1.7/1黒色粘土ブロックを含む
- 12:2.5Y3/3暗オリブ褐色シルト 5YR1.7/1黒色粘土を少し含む

SPC
L=9.0m

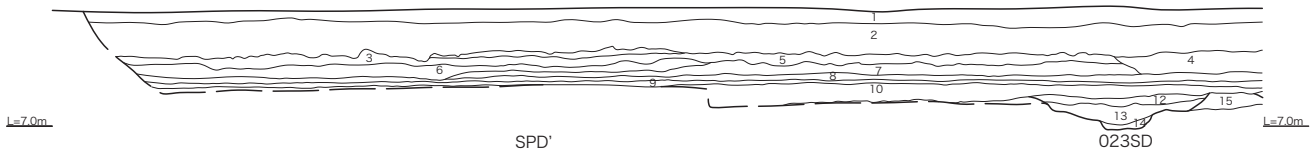
SPC'
L=9.0m



- 1:7.5YR黒色シルト 砕石を含む 表土
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:攪乱
- 4:10YR2/2黒褐色シルト 水田旧耕作土

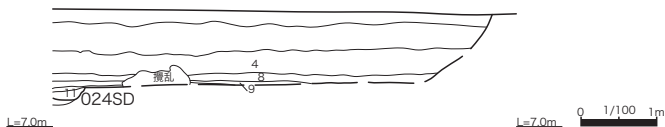
SPD
L=9.0m

L=9.0m



L=7.0m

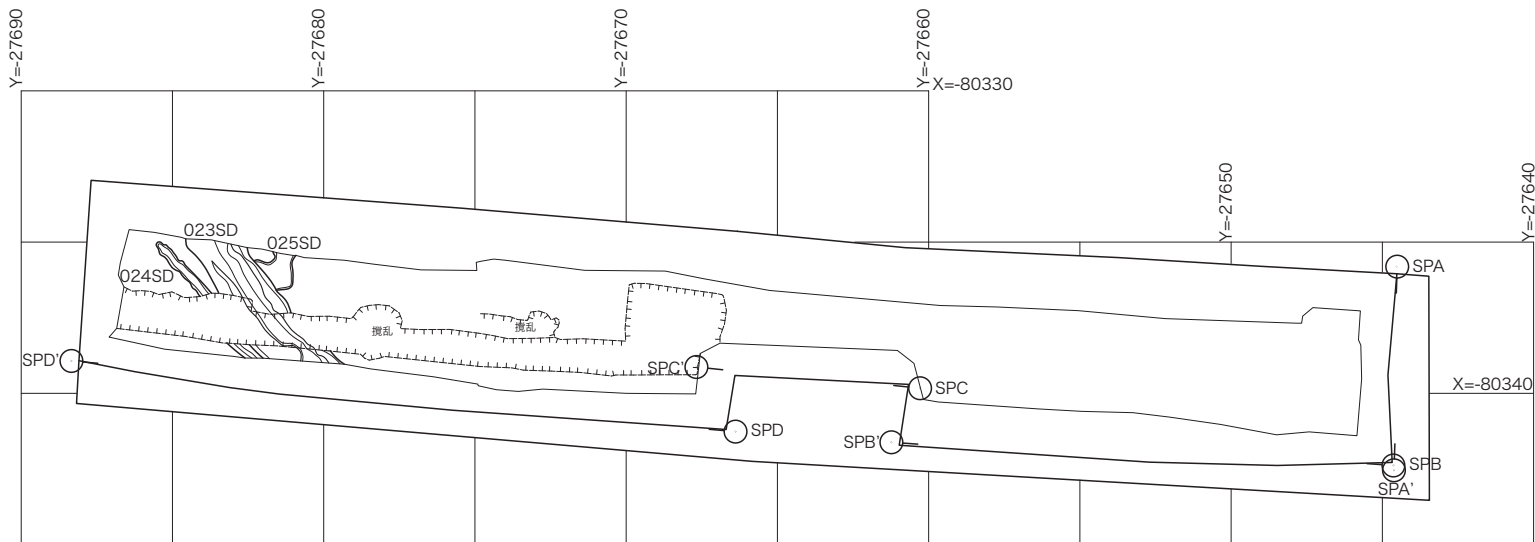
SPD'
L=9.0m



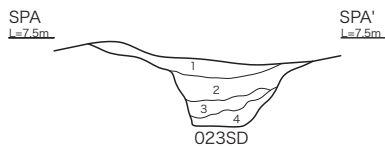
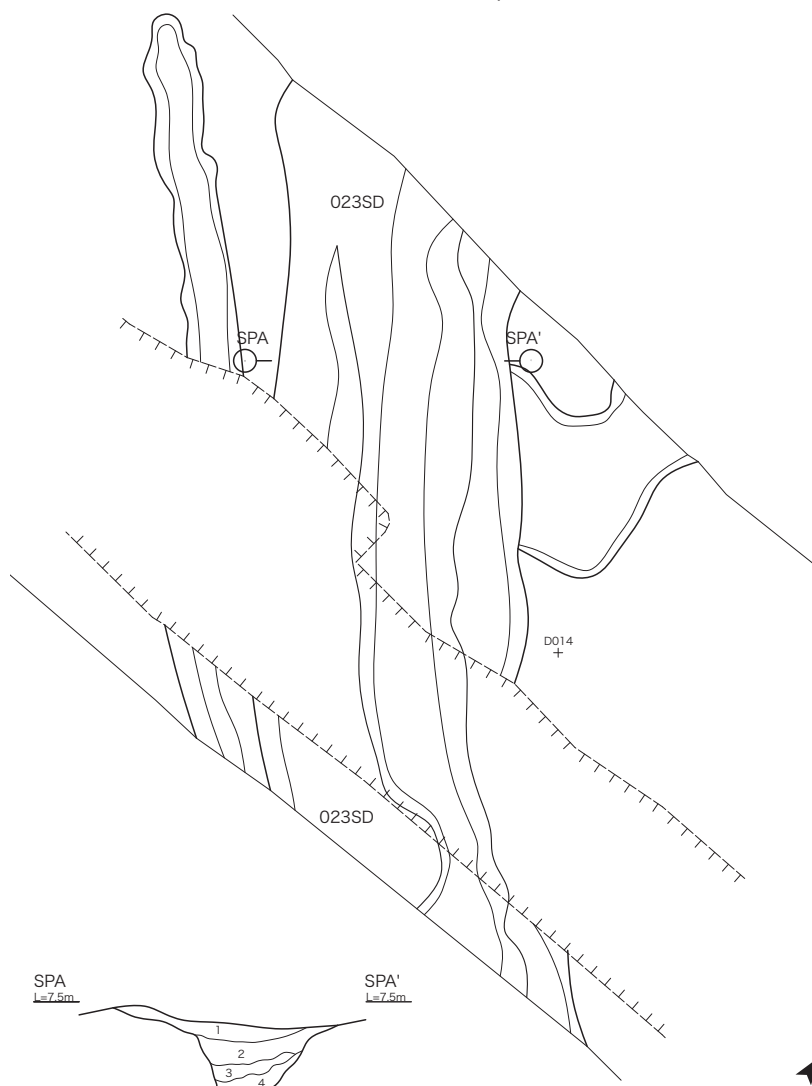
L=7.0m

- 1:7.5YR1.7/1黒色シルト 砕石を含む表土
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:10YR3/4暗褐色シルト 7.5YR7/6橙色粘土ブロックを少し含む
- 4:10YR3/3暗褐色シルト 7.5YR2/1黒色シルトブロックを少し含む 畑旧耕作土
- 5:10YR3/3暗褐色シルト 7.5YR2/1黒色シルトブロックを多く含む 水田旧耕作土
- 6:7.5YR3/3暗褐色シルト 水田旧耕作土
- 7:10YR2/2黒褐色シルト 水田旧耕作土
- 8:7.5YR3/2黒褐色シルト
- 9:10YR2/2黒褐色シルト1
- 10:7.5YR2/1黒色シルト
- 11:7.5Y2/1黒色シルト 2.5Y5/1黄灰色シルトブロックを少し含む
- 12:2.5Y3/1黒褐色シルト 2.5Y2/1黒色シルトを含む
- 13:2.5Y2/1黒色シルト 2.5Y5/1黄灰色シルトブロックを少し含む
- 14:7.5YR4/1褐色シルト 2.5Y5/1黄灰色粗粒砂を多く含む
- 15:2.5Y2/1黒色シルト 2.5Y5/1黄灰色シルトブロックを含む

第 20 図 23D 区東壁セクション・南壁セクション (1/100)



第21図 23D区遺構図(1/250)



- 1:7.5YR2/1 黒色シルト 2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂を少し含む
 2:7.5YR2/1 黒色シルト
 3:7.5YR2/1 黒色シルト 2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂を含む
 4:2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂 7.5YR4/1 褐灰色シルトを含む



第22図 023SD (1/50)

SPB
L=9.0m

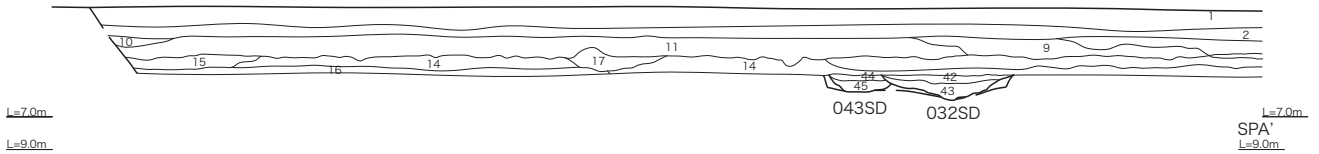
SPB'
L=9.0m



- 1:現道基礎 砕石
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを少し含む
- 4:10YR3/2黒褐色シルト
- 5:7.5YR3/4暗褐色シルト
- 6:10YR2/3黒褐色シルト
- 7:7.5YR3/3暗褐色シルト
- 8:7.5YR3/1黒褐色シルト
- 9:10YR3/1黒褐色シルト
- 10:7.5YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色砂を少し含む
- 11:10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色砂を含む
- 12:10YR4/4褐色砂 7.5YR2/1黒色シルトを縞状に含む
- 13:10YR3/2黒褐色シルト
- 14:10YR2/3黒褐色シルト

SPA
L=9.0m

L=9.0m

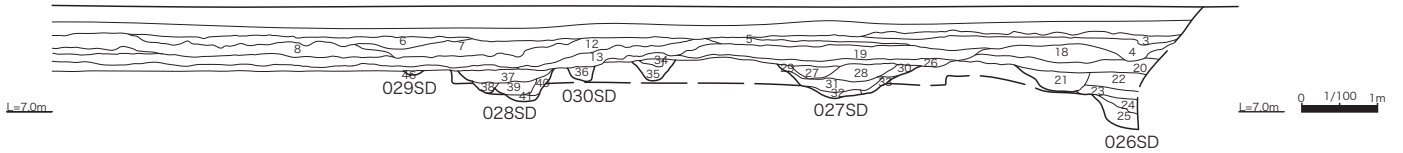


L=7.0m

L=9.0m

L=7.0m

SPA'
L=9.0m



L=7.0m

L=7.0m

0 1/100 1m

- 1:現道基礎 砕石
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを少し含む
- 4:10YR3/2黒褐色シルト
- 5:10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを含む
- 6:10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを多く含む
- 7:10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを少し含む
- 8:10YR3/2黒褐色シルトブロックと10YR2/1黒色シルトブロックの混合
- 9:10YR3/1黒褐色シルト 7.5YR2/1黒色シルトブロックを少し含む
- 10:10YR3/2黒褐色シルト
- 11:10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを多く含む
- 12:7.5YR3/2黒褐色シルト
- 13:7.5YR3/2黒褐色シルト 7.5YR2/2黒褐色シルトを含む
- 14:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 15:10YR3/1黒褐色シルト
- 16:7.5YR4/2灰褐色シルト
- 17:2.5Y4/1黄灰色シルト
- 18:7.5YR3/4暗褐色シルト
- 19:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 20:10YR2/3黒褐色シルト
- 21:7.5YR3/3暗褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトを含む
- 22:7.5YR3/3暗褐色シルト
- 23:7.5YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色粗粒砂を少し含む
- 24:10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色粗粒砂を含む
- 25:10YR4/4褐色粗粒砂 7.5YR2/1黒色シルトを縞状に含む
- 26:7.5YR3/3暗褐色シルト
- 27:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 28:7.5YR3/3暗褐色シルト
- 29:10YR4/4褐色中粒砂 7.5YR3/3暗褐色シルトを含む
- 30:7.5YR3/3暗褐色シルト 10YR4/2褐色中粒砂を含む
- 31:10YR4/4褐色粗粒砂
- 32:10YR4/4褐色粗粒砂 10YR3/3暗褐色シルトを含む
- 33:10YR3/3暗褐色シルト
- 34:10YR2/1黒色シルト
- 35:10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色粗粒砂を多く含む
- 36:10YR2/1黒色シルト 10YR4/4褐色粗粒砂を少し含む
- 37:10YR2/3黒褐色シルト 10YR4/4褐色粗粒砂を少し含む
- 38:10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色粗粒砂を少し含む
- 39:10YR4/4褐色粗粒砂 10YR3/1黒褐色シルトを含む
- 40:10YR4/4褐色粗粒砂 10YR3/1黒褐色シルトを縞状に含む
- 41:10YR4/4褐色粗粒砂 10YR4/1褐色シルトを含む
- 42:7.5YR4/1褐色シルト 2.5Y5/2暗灰黄色粗粒砂を多く含む
- 43:2.5Y3/2黒褐色シルト 2.5Y5/2暗灰黄色粗粒砂を含む
- 44:2.5Y3/2黒褐色シルト 2.5Y5/2暗灰黄色粗粒砂を含む
- 45:2.5Y3/1黒褐色シルト 2.5Y5/2暗灰黄色粗粒砂を多く含む
- 46:10YR4/4褐色粗粒砂 10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む

第 23 図 23E 区西壁セクション・南壁セクション (1/100)

Y=27730

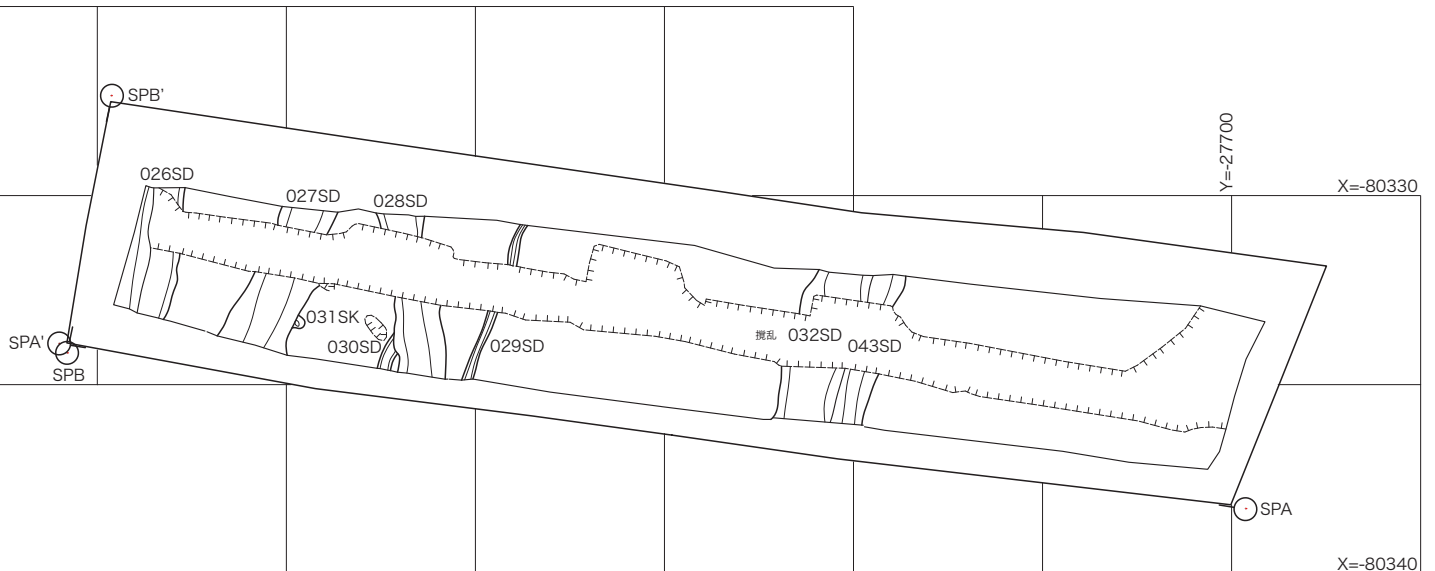
Y=27720

Y=27710

Y=27700

X=-80330

X=-80340



第 24 図 23E 区遺構図 (1/200)

SPB
L=9.0m

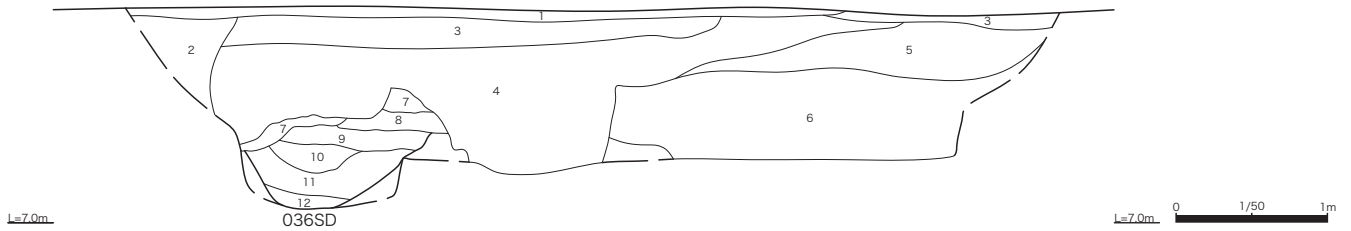
SPB'
L=9.0m



- 1:現道基礎 砕石
- 2:現道基礎 盛り土
- 3:2.5Y6/4にぶい黄色粗粒砂 攪乱
- 4:10YR2/2黒褐色シルト 10YR3/1黒褐色シルトを多く含む
- 5:2.5Y3/1黒褐色シルト
- 6:10YR3/1黒褐色シルト
- 7:7.5YR3/2黒褐色シルト 002SX上層
- 8:7.5YR2/2黒褐色シルト 002SX中層
- 9:5Y4/1灰色粗粒砂 002SX下層
- 10:7.5YR3/2黒褐色シルト 2.5Y4/2灰黄褐色細粒砂ブロックを含む
- 11:7.5YR2/3極暗褐色シルト

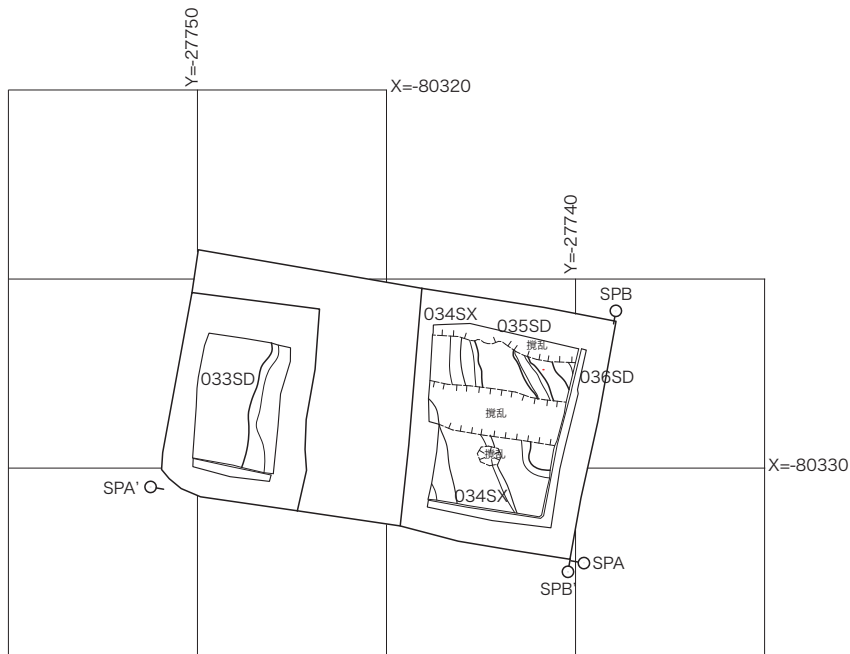
SPB
L=9.0m

SPB'
L=9.0m

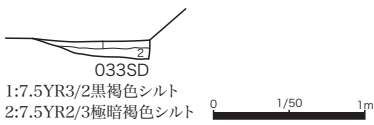
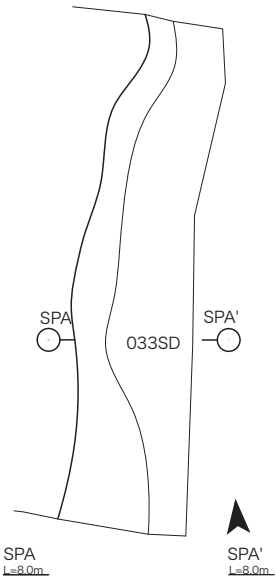


- 1:10YR5/3にぶい黄褐色シルト 現表土
- 2:2.5Y4/3オリーブ褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトブロックを含む 攪乱
- 3:現道路基礎 砕石
- 4:10YR5/2灰黄褐色シルト 径数cmの角礫を多く含む 旧用水路埋め土 攪乱
- 5:10YR5/4にぶい黄褐色シルト 径数cmの角礫を多く含む 攪乱
- 6:2.5Y6/4にぶい黄色粗粒砂 攪乱
- 7:5YR2/1黒褐色シルト 攪乱
- 8:7.5YR2/2黒褐色シルト 2.5Y4/3オリーブ褐色シルトブロックを少し含む
- 9:7.5YR2/2黒褐色シルト 2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを少し含む
- 10:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 11:7.5YR2/2黒褐色シルト 2.5Y4/3オリーブ褐色シルトブロックを多く含む
- 12:10YR2/2黒褐色シルト 2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを多く含む

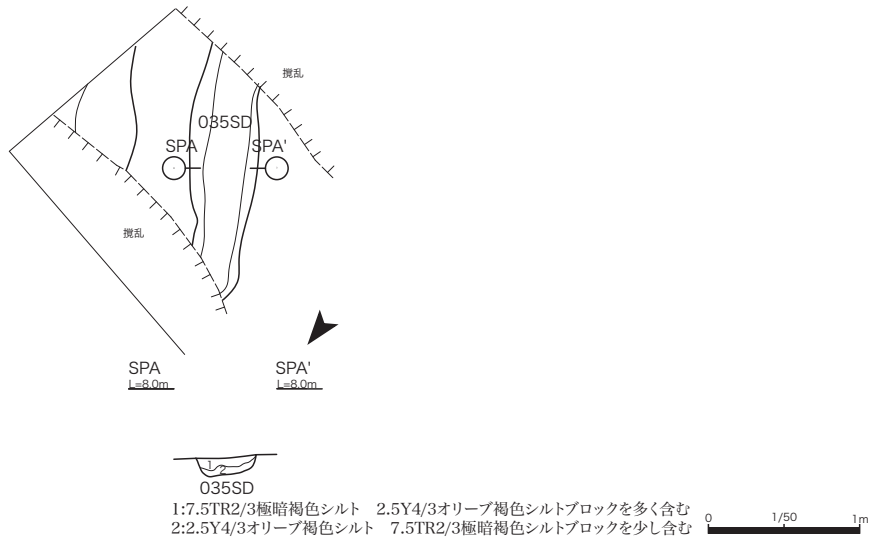
第 25 図 23F 区南壁セクション・東壁セクション (1/100)



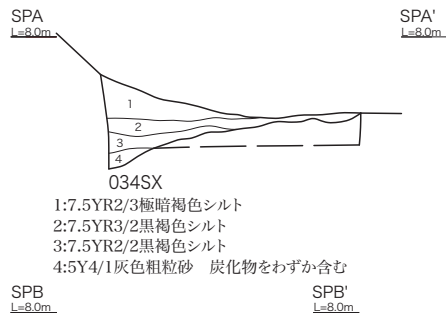
第 26 図 23F 区遺構図 (1/200)



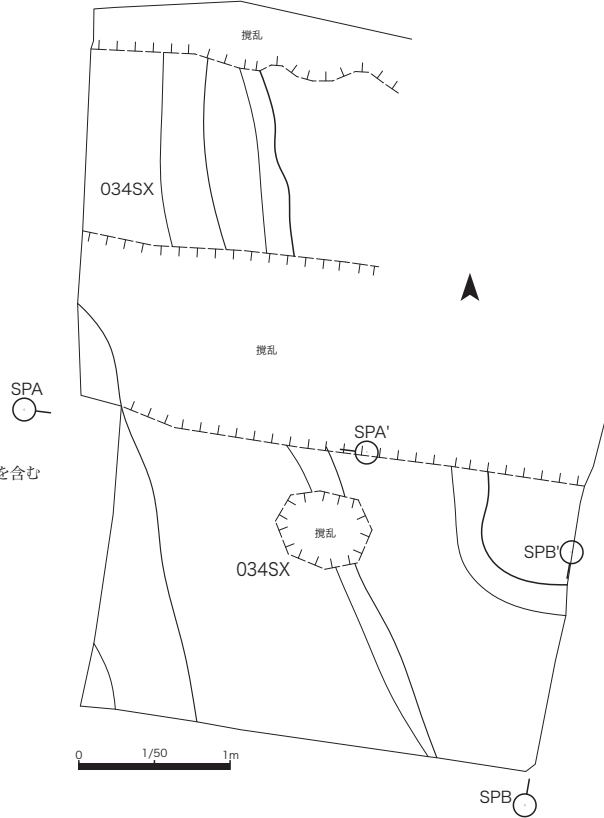
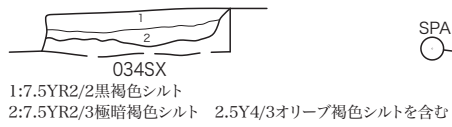
第 27 図 033SD (1/50)



第 28 図 035SD (1/50)



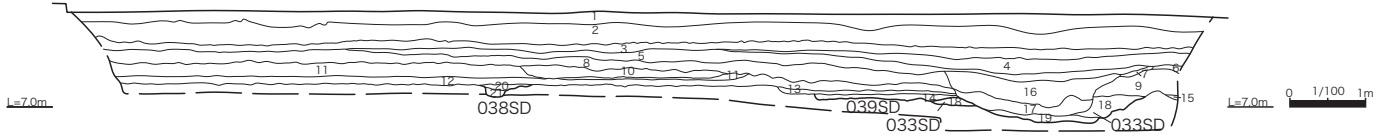
- 1:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 2:7.5YR3/2黒褐色シルト
- 3:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 4:5Y4/1灰色粗粒砂 炭化物をわずか含む



第 29 図 034SX (1/50)

SPA
L=9.0m

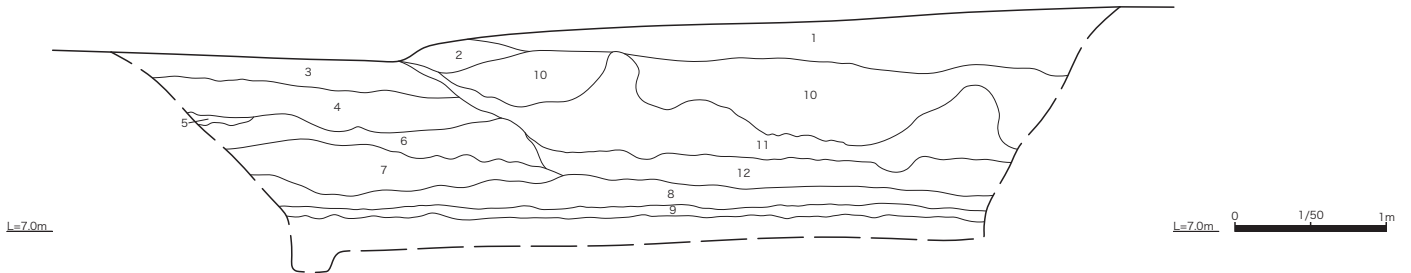
SPA'
L=9.0m



- | | |
|--|--|
| 1:現道基礎砕石 | 11:7.5YR3/1黒褐色シルト |
| 2:現道基礎砕盛り土 | 12:7.5YR2/3極暗褐色シルト |
| 3:10YR2/1黒色シルト 現道基礎盛り土ブロックを多く含む | 13:10YR2/3黒褐色シルト |
| 4:10YR3/2黒褐色シルト 2.5Y7/1灰白色粗粒砂を多く含む | 14:2.5Y3/2黒褐色シルト |
| 5:10YR2/3黒褐色シルト 10YR3/2暗褐色シルトブロックを多く含む | 15:5Y3/1オリーブ黒色シルト |
| 6:10YR2/2黒褐色シルト | 16:7.5Y2/3極暗褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト粒・ブロックを多く含む |
| 7:10YR3/3暗褐色粗砂 | 17:10YR2/2黒褐色シルト |
| 8:10YR3/2黒褐色シルト 10YR3/1黒色シルト粒・ブロックを含む | 18:2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト |
| 9:10YR3/2黒褐色シルト | 19:5Y5/1灰色粗砂 2.5Y5/1黄灰シルトブロックを含む |
| 10:10YR2/1黒色シルト 10YR3/3暗褐色シルト粒・ブロックを多く含む | 20:7.5YR3/2黒褐色シルト |
| | 21:7.5YR2/3極暗褐色シルト |

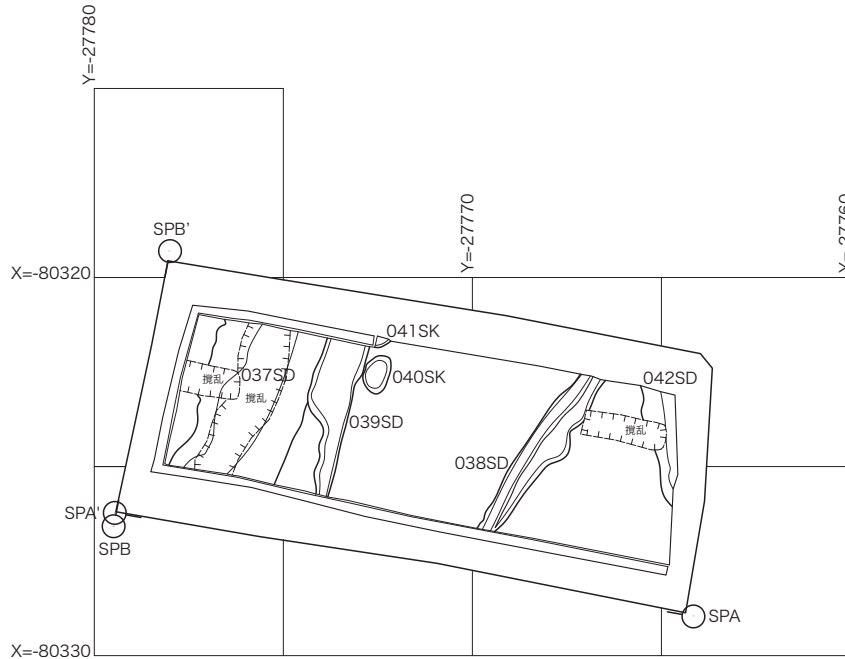
SPB
L=9.0m

SPB'
L=9.0m

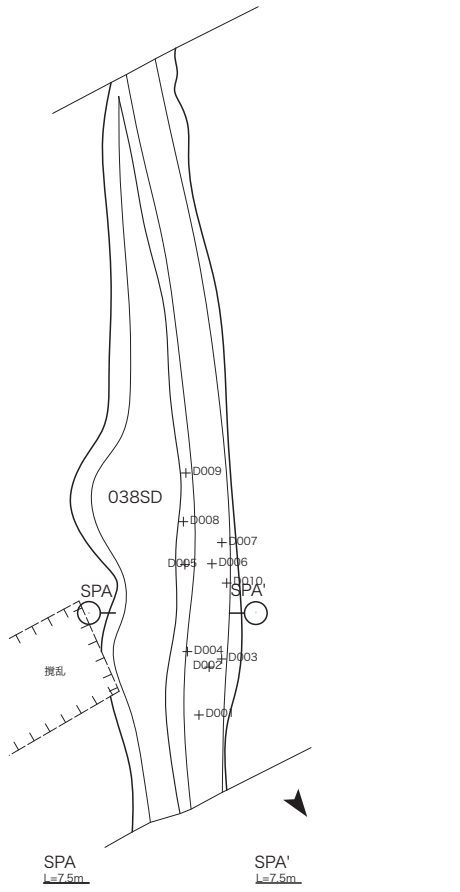


- | |
|---------------------------------------|
| 1:砕石 |
| 2:2.5Y3/2黒褐色シルト 現表土 |
| 3:現道基礎砕石 |
| 4:現道基礎砕盛り土 |
| 5:10YR2/1黒色シルト |
| 6:10YR3/2黒褐色シルト 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗砂を多く含む |
| 7:10YR2/2黒褐色シルト |
| 8:10YR3/2黒褐色シルト 5Y3/1オリーブ黒色シルトブロックを含む |
| 9:5Y3/1オリーブ黒色シルト 10YR3/2黒褐色シルトを含む |
| 10:砕石 |
| 11:2.5Y3/1黒褐色シルト 攪乱 |
| 12:10Y2/3黒褐色シルト 攪乱 |

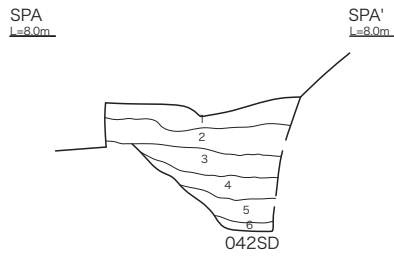
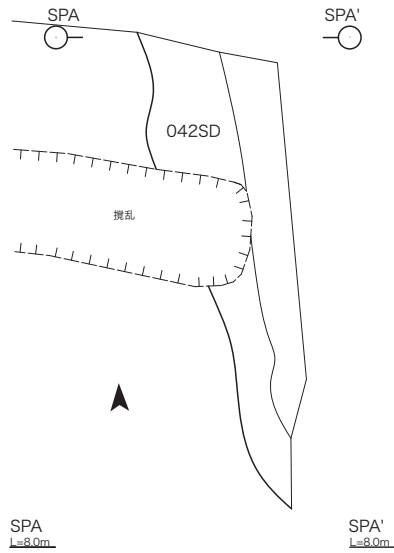
第 30 図 23G 区南壁セクション・西壁セクション (1/100)



第 31 図 23G 区遺構図 (1/200)



038SD
 1:7.5YR3/2黒褐色シルト
 2:7.5YR2/3極暗褐色シルト
 第 32 図 038SD(1/50)



- 1:10YR4/2灰黄褐色細砂 10YR1/3黒褐色シルトブロックを含む
- 2:10YR1/3黒褐色シルト
- 3:10YR2/3黒褐色シルト 7.5YR褐灰色粗粒砂を多く含む
- 4:7.5YR3/1黒褐色シルト
- 5:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 6:10YR2/1黒褐色シルト 2.5Y黄灰色粘土ブロックを含む

第 33 図 042SD(1/50)



第3章 遺物

第1節 弥生時代

23D区(第34図1～3)

包含層より弥生土器が出土している。1・2は後期の高杯脚の脚部である。1は横方向沈線文と櫛状器具の横方向連続刺突文が施される。脚接合部が中空で器台の可能性ある。2も横方向沈線文が施され、脚部接合部が中空で器台の可能性ある。3は後期の高杯口縁部で櫛状器具の波状文が施される。

第2節 古墳時代

古墳時代前期の土師器類が出土している。

23A区(第34図4～6)

003SD(4・5) 4は台付甕脚部、5は器台脚部で円孔が4箇所施される。

004SD(6) 6は台付甕脚部である。

23D区(第34図7～18・第35図19～29)

023SD(7～18) 7・8は広口壺で、8は口縁端部を下方に肥厚し、肥厚面に沈線文を巡らす。9～12は広口壺の肩部破片である。9～11は櫛状器具で横方向沈線・刺突文が施される。10は無文部、11は全面に赤彩される。12は横方向沈線文と波状文が施される。13は大形の壺底部である。14はく字状口縁甕で口縁端部に連続刺突文が施される。15・16は有段高杯口縁と体部である。17・18は高杯脚部でやや内湾する形状である。円孔が4箇所施される。

遺構外(19～29) 19は広口壺、20は受け口状口縁の広口壺である。口縁外面に櫛状器具による刺突文を巡らす。21は口縁端部を肥厚し、沈線文を施す広口壺である。口縁上面に櫛状器具の連続刺突文を巡らす。22・23は広口壺の肩部破片で横方向沈線文と櫛状器具による連続山形文を施す。22は山形文部分と下部無文部に、23は山形文部分に赤彩を施す。24は大形の壺底部である。25は短く外反する口縁の甕である。26～28はS字状口縁甕の口縁部である。26はA類、27・28はB類である。29は高杯脚部で沈線文と櫛状器具による連続刺突文を巡らす。

23E区(第35図30)

028SD(30) 30はく字状口縁甕の口縁である。

23F区(第35図31・32)

033SD(31) 31はS字状口縁甕の口縁部である。C類である。

034SX(32) 32はS字状口縁甕の口縁部である。C類である。

23G区(第35図33～37)

038SD(33～35) 33は強く外反する口縁のく字状口縁甕である。口縁端部に沈線文を巡らす。34は有段高杯である。35は小形の高杯脚部である。

042SD(36・37) 36は二重口縁壺である。内外面に櫛状器具による連続刺突文を巡らし、内外面に赤彩を施す。37は台付甕脚部である。

第3節 古代

23E区(第35図38~44)

027SD(38) 38は須恵器杯蓋である。7世紀後半の時期と考える。

032SD(41~44) 41~43は灰釉陶器碗、44は山茶碗である。11世紀代の時期である。

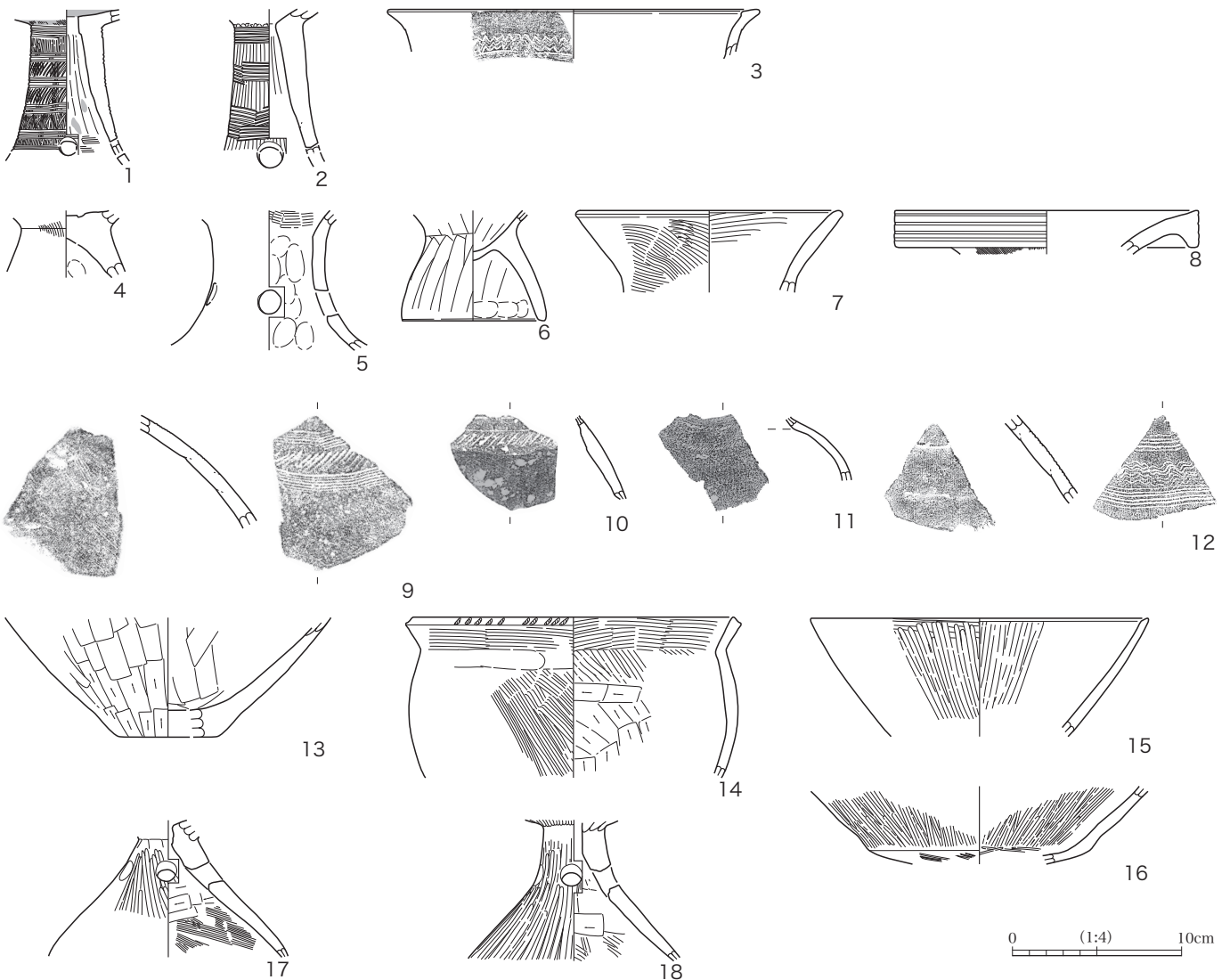
043SD(39・40) 39・40は須恵器杯蓋である。40の外面上部にヘラ状器具による線刻が施される。7世紀後半の時期と考える。

第4節 中世・戦国時代

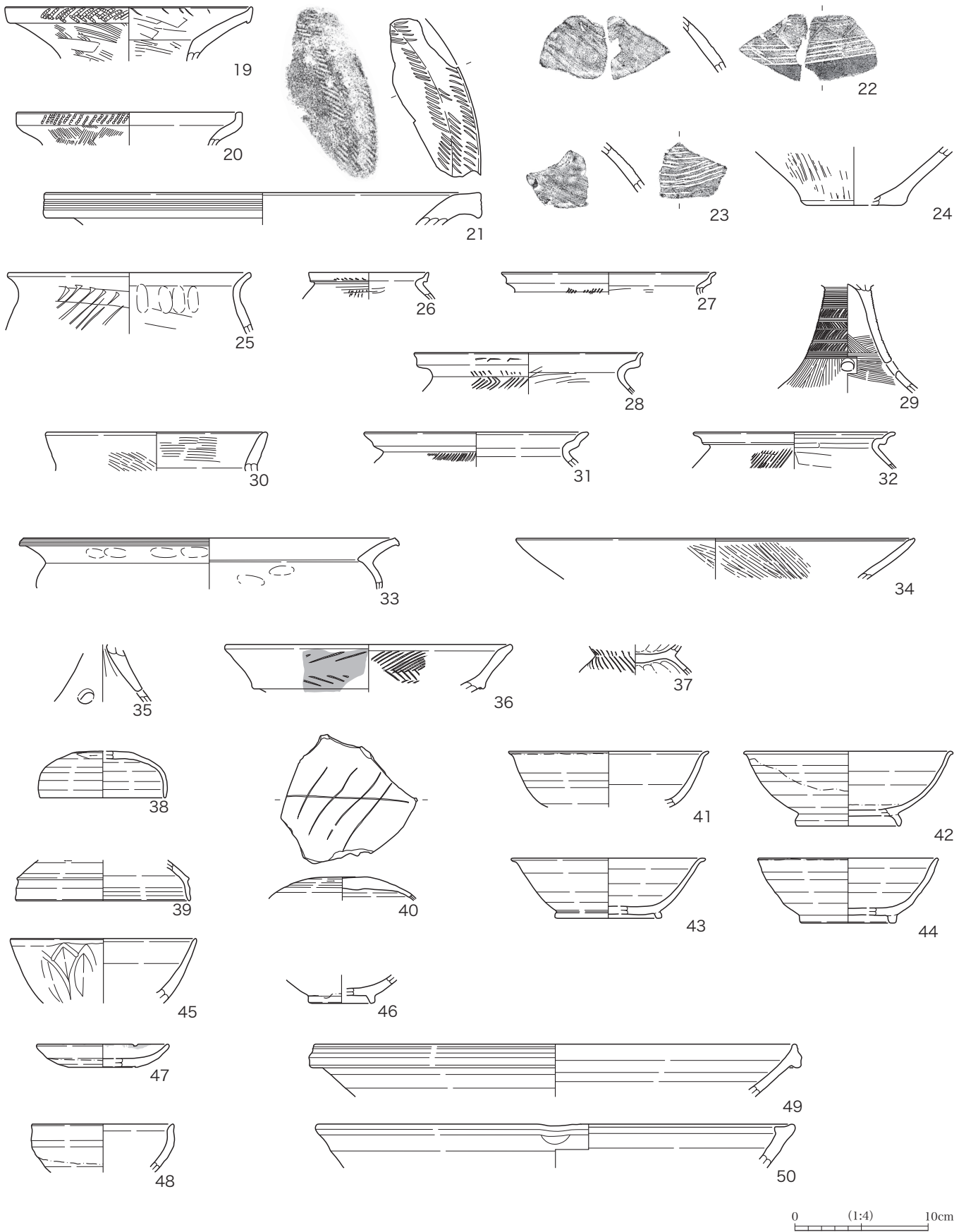
23G区(第35図45~50)

037SD(45~50) 45は青磁蓮弁文碗、46は白磁碗底部である。13~14世紀代の時期である。

47は鉄釉丸皿、48は天目茶碗、49・50は摺鉢口縁部である。16世紀代の時期である。



第34図 出土土器1(1/4)



第 35 图 出土土器 2 (1/4)

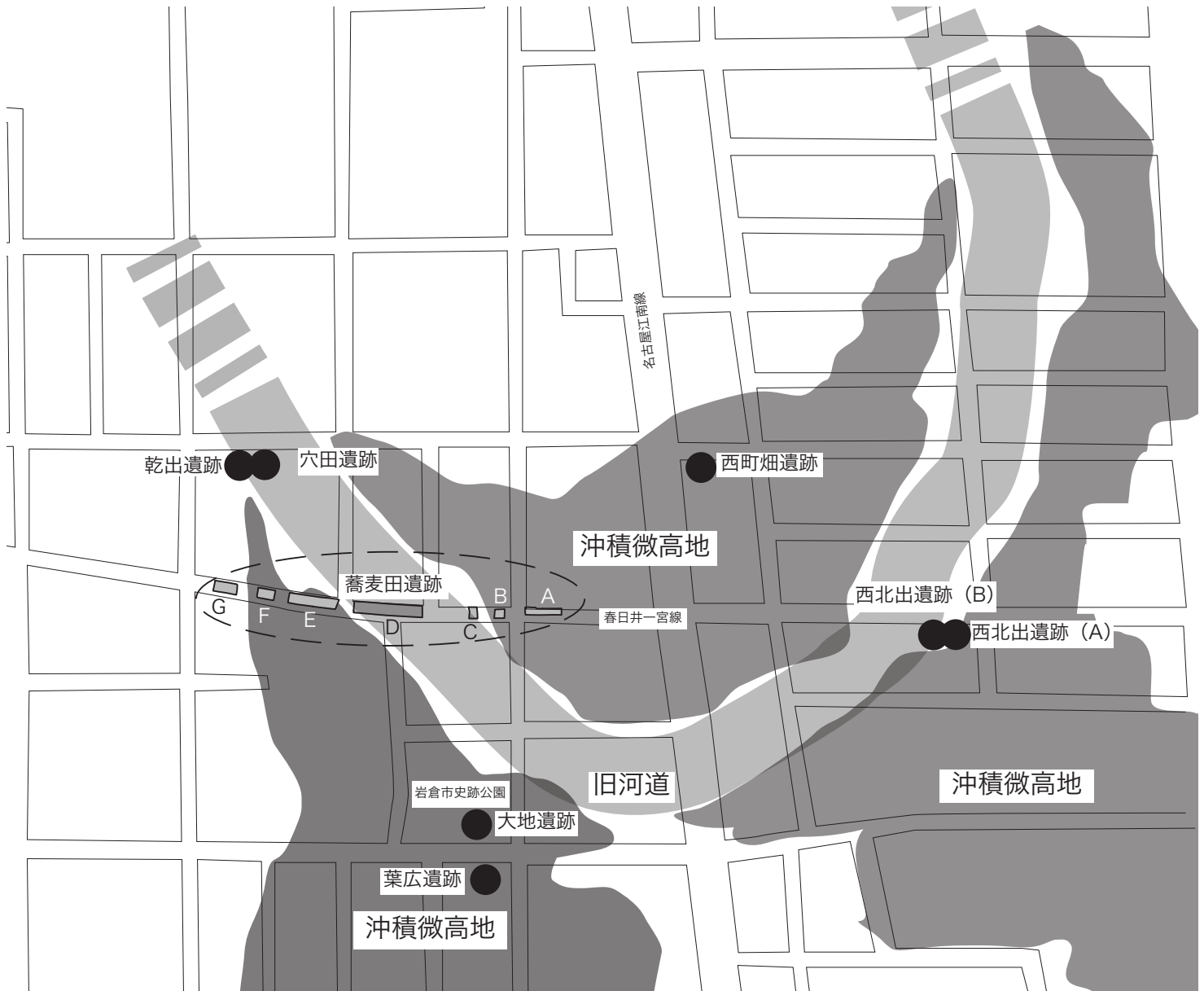
第4章 総括

本遺跡は沖積地に立地する。遺跡の東方から南方に流れる五条川に沿って自然堤防による沖積微高地が広がる。また、遺跡の北東から西を流れる青木川に沿って広く自然堤防が展開する。この二つの自然堤防群の間は直径 1.5km ほどの後背湿地となる。本遺跡はこの中央にある自然堤防から後背湿地にかけて立地する。第 36 図のように遺跡近辺には自然堤防による三つの沖積微高地がある。これらの間に蕎麦田遺跡中央を通って北西から南東に向かい、弧を描いて東方向から北西方向に走る旧河道が想定される。この部分は後背湿地となる。遺跡の東側に旧河道に沿って地図上で三日月状になる微高地がある。西側の微高地には縄文時代～弥生時代の野辺遺跡、ノンベ遺跡、弥生時代遺跡の大地遺跡などが立地する。この微高地の北に近接して縄文時代後期の穴田遺跡、乾出遺跡がある。東側の微高地には弥生時代中・後期遺跡の町畑遺跡がある。この微高地の西側旧河道を挟んだ微高地には縄文時代・古墳時代の西北出遺跡がある。

本遺跡の調査区は道路造成地にあり、1960 年代以降の圃場整備と道路工事によって掘削されて平坦地化されている。1960 年代以前に存在した土地の起伏はほとんど認められない。図は 1940 年代の航空写真によって微高地および後背湿地範囲を示す。本遺跡の 23A 区・23B 区は東側の微高地に位置する。23C 区・23D 区は旧河道の後背湿地に位置する。23E 区・23F 区は西側微高地に位置する。23G 区は後背湿地に位置する。微高地の 23A・23B 区は比較的遺構が密に確認されている。23A 区では古墳時代前半の遺構が集中して検出された。建物に関連する遺構はないが、溝などからこの区域に集落が展開したものと推定される。23B 区でも比較的遺構が集中し、中世遺構などが検出された。23C 区は基盤上に湿地性の堆積物が確認され、遺構は確認されていない。23D 区の東半は道路造成および圃場整備による削平が行われず、旧耕作土が残存している。この下部には湿地性の堆積層が約 2.5m あり、その下層に河川性の粗砂が存在し、基盤となる。基盤は西に高くなり、細砂、シルト層となる。調査区西部の古墳時代溝付近では基盤層は遺物包含層直下まで上昇し、基盤層上の湿地性堆積物は薄くなる。検出された古墳時代溝は想定される旧河道の縁辺に沿う方向に走る。23E・F 区は沖積微高地に位置する。23E 区では古墳時代前半と古代の遺構が確認されている。湿地性の堆積層は認められず、旧耕作土直下の基盤面上で溝が検出されている。集落関係の遺構は遺存しない。比較的深い掘り込みの遺構のみが確認されている。23F 区では湿地性の堆積層はなく、旧耕作土層下の基盤面で古墳時代前半の溝が検出された。23G 区は沖積微高地に近接した位置にある。旧耕作土下に湿地性の包含層があり、その下層の基盤層で古墳時代遺構が検出された。土坑などの集落関係の遺構は確認されなかった。後背湿地端部に立地していると考えられる。

沖積微高地にある 23A 区・23B 区には古墳時代前期を中心に遺構が集中する。後背湿地に位置する 23C 区と 23D 区の東部から中央部には遺構は検出されない。後背湿地から外れる 23D 区西端から 23E 区・23F 区と後背湿地端の 23G 区東端には古墳時代前期と古代の遺構が集中する。後背湿地に位置する G 区中央部以西には中世以前の遺構はなく、近世以降の遺構が

確認された。旧地形の状況と遺構の展開のあり方はほぼ対応する。今後の課題は当遺跡と周辺の遺跡の調査をつうじて遺跡のあり方を検討することである。



第 36 図 周辺地形と調査区

付表 遺構一覧

調査区	遺構	グリッド	遺構面	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土
23A	001SE	3356_3455	1面	2.14	1.21	0.43	遺構図参照
23A	002SE	3355_3455	1面	1.48	0.89	0.38	南壁セクション参照
23A	003SD	3356_3456	1面	3.21	1.68	0.47	遺構図参照
23A	004SD	3356_3456	1面	4.22	2.98	0.27	遺構図参照
23A	005SK	3356_3456	1面	1.07	1.01	0.41	遺構図参照
23A	006SK	3356_3456	1面	1.154	0.92	0.19	遺構図参照
23A	007SK	3357	1面	1	0.63	0.29	7.5YR2/2黒褐色シルト
23A	008SD	3357	1面	2.22	0.98	0.29	遺構図参照
23A	009SD	3357	1面	2.27	0.41	0.09	7.5YR3/2黒褐色シルト
23A	010SD	3357	1面	3.38	0.49	0.11	7.5YR2/2黒褐色シルト
23A	011SD	3457	1面	2.21	1.1	0.39	7.5YR3/2黒褐色シルト
23A	012SD	3357_3357	1面	4.47	0.62	0.08	遺構図参照
23A	013SK	3457	1面	1.18	0.45	0.35	遺構図参照
23A	014SK	3357	1面	0.91	0.39	0.1	7.5YR3/2黒褐色シルト
23A	015SK	3357	1面	1.05	0.37	0.13	7.5YR3/2黒褐色シルト
23A	016SK	3357	1面	2.01	0.95	0.37	遺構図参照
23B	017SD	3459	1面	2.91	0.48	0.69	南壁セクション参照
23B	018SD	3459	1面	3.98	0.39	0.1	7.5YR2/1黒色シルト
23B	019SK	3459	1面	1.29	0.77	0.09	10YR2/2黒褐色シルト
23B	020SK	3459	1面	0.8	0.55	0.07	7.5YR3/2黒褐色シルト
23B	021SK	3459	1面	0.86	0.69	0.19	10YR2/1黒色シルト
23B	022SK	3459	1面	0.37	0.24	0.04	10YR2/2黒褐色シルト
23D	023SD	3368	1面	6.68	1.67	0.39	遺構図参照
23D	024SD	3368	1面	5.18	0.3	0.15	南壁セクション参照
23D	025SD	3368	1面	1.26	1.17	0.08	7.5YR2/1黒色シルト
23E	026SD	3373	1面	3.52	1.02	0.59	南壁セクション参照
23E	027SD	3373_3372	1面	3.88	1.31	0.38	南壁セクション参照
23E	028SD	3372	1面	4.33	1.11	0.46	南壁セクション参照
23E	029SD	3372	1面	4.45	0.25	0.56	南壁セクション参照
23E	030SD	3372	1面	1.01	0.37	0.2	南壁セクション参照
23E	031SK	3372	1面	0.38	0.26	0.21	7.5YR3/2黒褐色シルト
23E	032SD	3357	1面	3.95	1.64	0.2	南壁セクション参照
23F	033SD	3275	1面	3.39	0.52	0.25	遺構図・南壁セクション参照
23F	034SX	3274	1面	5.58	2.1	0.7	遺構図・南壁セクション参照
23F	035SD	3274	1面	1.71	0.31	0.12	遺構図参照
23F	036SD	3274	1面	0.85	0.56	0.47	東壁セクション参照
23G	037SD	3278_3277	1面	4.14	2.75	0.36	南壁セクション参照
23G	038SD	3277	1面	5.19	0.82	0.19	遺構図・南壁セクション参照
23G	039SD	3277	1面	4.1	0.32	0.1	南壁セクション参照
23G	040SK	3277	1面	1.03	0.65	0.09	10YR2/2黒褐色シルト
23G	041SK	3277	1面	0.46	0.31	0.06	10YR3/2黒褐色シルト
23G	042SD	3277_3276	1面	3.31	0.58	0.65	遺構図参照
23E	043SD	3357	1面	3.95	0.84	0.26	南壁セクション参照

付表 出土遺物一覧

図版番号	調査区	遺構	時代	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調
1	23D	包含層	弥生	高杯	-	-	(8.6)	10YR7/3にぶい黄
2	23D	包含層	弥生	高杯	-	-	(8.6)	10YR7/3にぶい黄
3	23D	包含層	弥生	高杯	(22.0)	-	(2.9)	10YR7/3にぶい黄
4	23A	003SD	古墳	土師器/甕	-	-	(4.0)	7.5YR7/3にぶい橙
5	23A	003SD	古墳	土師器/器台	-	-	(8.3)	7.5YR7/3にぶい橙
6	23A	004SD	古墳	土師器/甕	-	8.4	(6.5)	10YR7/3にぶい黄
7	23D	023SD	古墳	土師器/壺	(15.6)	-	(4.8)	10YR7/3にぶい黄
8	23D	023SD	古墳	土師器/壺	(18.0)	-	(2.6)	10YR6/2灰黄褐
9	23D	023SD	古墳	土師器/壺	-	-	(6.7)	10YR7/3にぶい黄
10	23D	023SD	古墳	土師器/壺	-	-	(5.0)	10YR7/3にぶい黄
11	23D	023SD	古墳	土師器/壺	-	-	(3.8)	10YR7/2にぶい黄
12	23D	023SD	古墳	土師器/壺	-	-	(5.2)	10YR6/3にぶい黄
13	23D	023SD	古墳	土師器/壺	-	(6.0)	(7.1)	10YR6/3にぶい黄
14	23D	023SD	古墳	土師器/甕	(19.0)	-	(9.5)	10YR2/1黒
15	23D	023SD	古墳	土師器/高杯	(20.0)	-	(7.0)	10YR7/3にぶい黄
16	23D	023SD	古墳	土師器/高杯	-	-	(4.6)	10YR8/4浅黄橙
17	23D	023SD	古墳	土師器/高杯	-	-	(8.1)	10YR7/3にぶい黄
18	23D	023SD	古墳	土師器/高杯	-	-	(8.3)	10YR4/3にぶい黄
19	23D	包含層	古墳	土師器/壺	(18.4)	-	(4.1)	10YR6/2灰黄褐
20	23D	包含層	古墳	土師器/壺	(17.0)	-	(2.5)	10YR5/3にぶい黄
21	23D	包含層	古墳	土師器/壺	(32.6)	-	(2.4)	7.5YR5/3にぶい褐
22	23D	包含層	古墳	土師器/壺	-	-	(4.2)	10YR7/3にぶい黄
23	23D	包含層	古墳	土師器/壺	-	-	(3.7)	10YR7/3にぶい黄
24	23D	包含層	古墳	土師器/壺	-	(7.0)	(4.4)	10YR7/2にぶい黄
25	23D	包含層	古墳	土師器/甕	(18.0)	-	(4.6)	10YR6/2灰黄褐
26	23D	包含層	古墳	土師器/甕	(9.0)	-	(2.0)	10YR6/2灰黄褐
27	23D	包含層	古墳	土師器/甕	(16.0)	-	(1.7)	10YR6/2灰黄褐
28	23D	包含層	古墳	土師器/甕	(17.0)	-	(3.1)	10YR7/3にぶい黄
29	23D	包含層	古墳	土師器/高杯	-	-	(8.1)	10YR5/3にぶい黄
30	23E	028SD	古墳	土師器/甕	(16.4)	-	(2.9)	10YR8/3浅黄橙
31	23F	033SD	古墳	土師器/甕	(16.9)	-	(2.7)	10YR7/3にぶい黄
32	23F	034SX	古墳	土師器/甕	(15.0)	-	(2.8)	10YR7/3にぶい黄
33	23G	038SD	古墳	土師器/甕	(28.0)	-	(3.8)	10YR7/3にぶい黄
34	23G	038SD	古墳	土師器/高杯	(29.8)	-	(3.1)	7.5YR7/4にぶい橙
35	23G	038SD	古墳	土師器/高杯	-	-	(4.4)	10YR8/3浅黄橙
36	23G	042SD	古墳	土師器/壺	(21.2)	-	(3.6)	10YR7/4にぶい黄
37	23G	042SD	古墳	土師器/甕	-	-	(2.3)	10YR7/4にぶい黄
38	23E	027SD	古代	須恵器/杯蓋	(9.4)	-	(3.5)	N6/1灰
39	23E	043SD	古代	須恵器/杯蓋	(13.0)	-	(3.1)	N8/0灰白
40	23E	043SD	古代	須恵器/杯蓋	-	-	(1.8)	5Y3/1オリーブ黒
41	23E	032SD	古代	灰釉陶器/杯	(15.0)	-	(4.2)	釉 5Y7/2灰白
42	23E	032SD	古代	灰釉陶器/杯	(15.4)	(7.7)	5.6	5Y8/1灰白
43	23E	032SD	古代	灰釉陶器/杯	(14.6)	(8.0)	4.5	釉 5Y8/2灰白
44	23E	032SD	古代	山茶碗/碗	(13.4)	(7.0)	4.9	5Y8/1灰白
45	23G	037SD	中世	磁器/碗	(14.0)	-	(4.9)	7.5GY7/1明緑灰
46	23G	037SD	中世	磁器/碗	-	(5.0)	(2.2)	5Y6/2灰オリーブ
47	23G	037SD	戦国	陶器/皿	(9.8)	(5.2)	1.8	釉 2.5Y5/2暗灰
48	23G	037SD	戦国	陶器/碗	(10.6)	-	(3.6)	釉 5YR2/3極暗赤
49	23G	037SD	戦国	陶器/摺鉢	(36.0)	-	(3.9)	5YR4/1褐灰
50	23G	037SD	戦国	陶器/摺鉢	(36.0)	-	(3.3)	2.5YR3/2暗赤褐

写真図版

遺構 写真図版 1 ~ 19

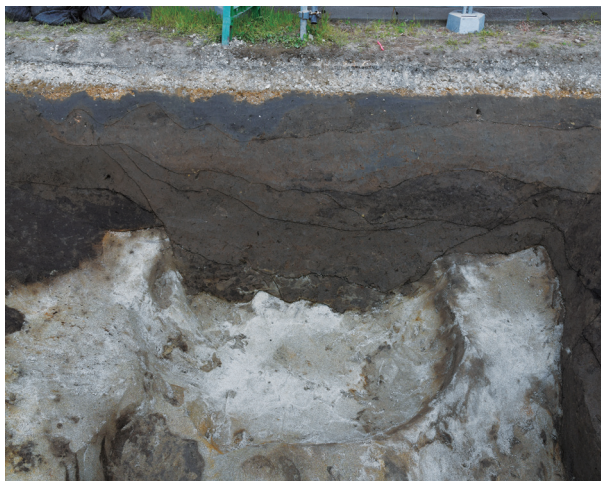
遺物 写真図版 20・21



Aa区完掘状況（西より）



Aa区完掘状況（東より）



001SE (南より)



002SE (西より)



001SE・002SE (南西より)



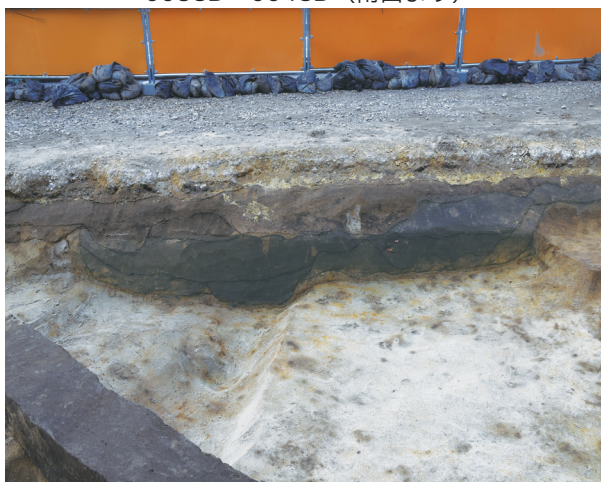
003SD (南西より)



003SD・004SD (南西より)



003SD・004SD セクション (南西より)



003SD・004SD セクション (北より)



004SD 遺物出土状況 (南西より)



Ab区完掘状況（西より）



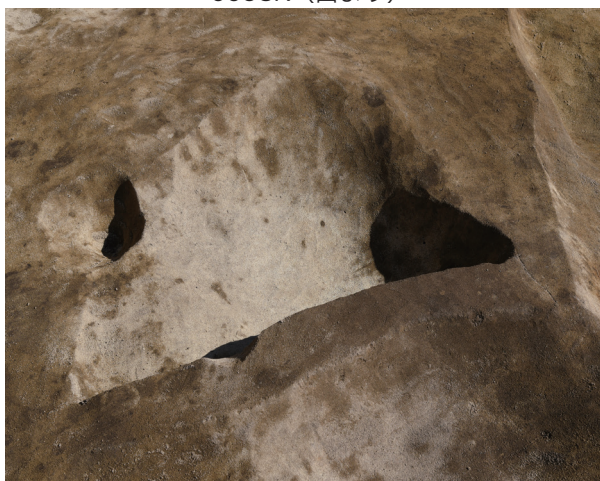
Ab区完掘状況（東より）



005SK (西より)



005SK セクション (東より)



006SK (西より)



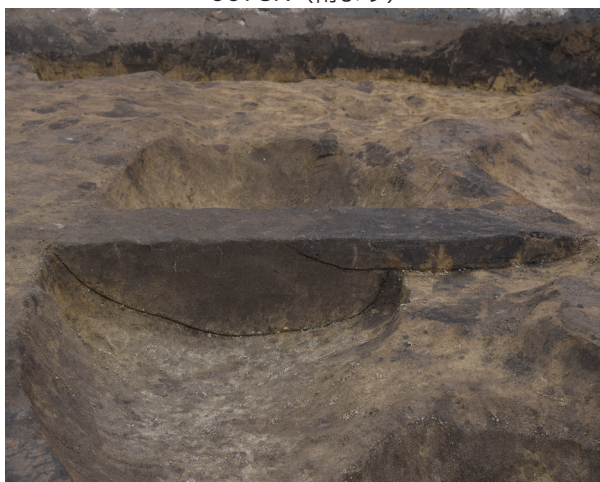
006SK セクション (東より)



007SK (南より)



008SD (南より)



008SD・012SD 区セクション (南より)



009SD (南より)



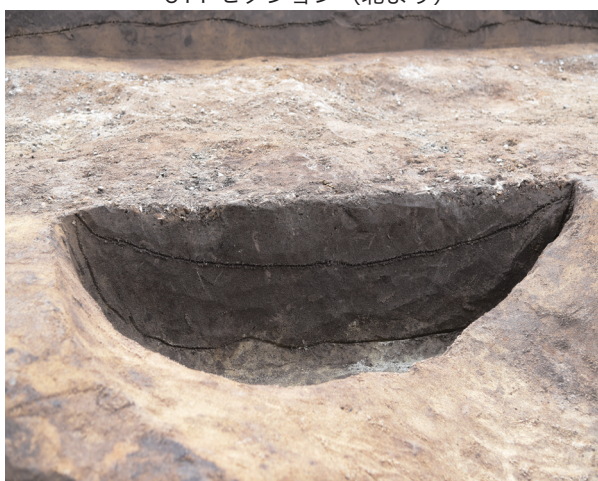
010SD (南西より)



011 セクション (北より)



012SD (南西より)



013SD セクション (北西より)



016SK (南西より)



016SK セクション (南西より)



017SD (南西より)



017SD セクション (北より)



B区完掘状況（北より）



B区完掘状況（西より）



C区完掘状況（北より）



018SD（東より）



019SK（東より）



020SK（東より）



Da区完掘状況（北より）



Da 区完掘状況（東より）



Da 区完掘状況（西より）



Da 区遠景（西より）



Da 区南壁東端セクション（北より）



Da 区南壁セクション（北西より）



Da 区南壁セクション壁（北東より）



Db 区完掘状況（真上より）



Db 区完掘状況（北より）



023SD・024SD（北西より）



023SD セクション（南東より）



Db区完掘状況（西より）



Db区完掘状況（東より）



Db 区南壁セクション (北西より)



023SD・024SD 南壁セクション (北より)



Ea 区完掘状況 (真上より)



Ea 区完掘状況 (北西より)



026SD (南より)



026SD 南壁セクション (北より)



027SD (南より)



027SD 遺物出土状況 (南より)



Ea区完掘状況（西より）



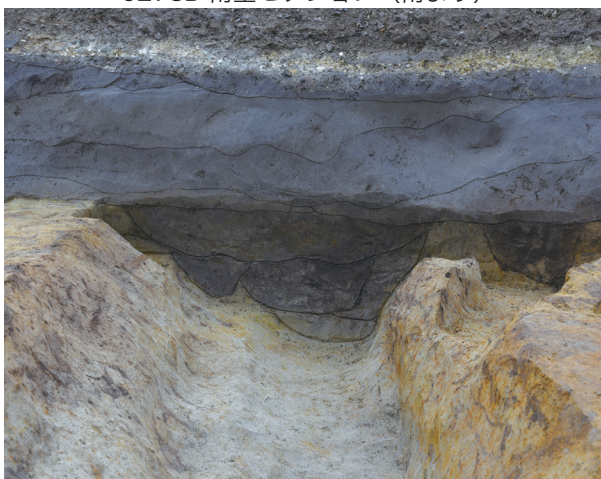
Ea区完掘状況（東より）



027SD 南壁セクション (南より)



028SD (南より)



028SD 南壁セクション (北より)



029SD (北より)



029SD 南壁セクション (北より)



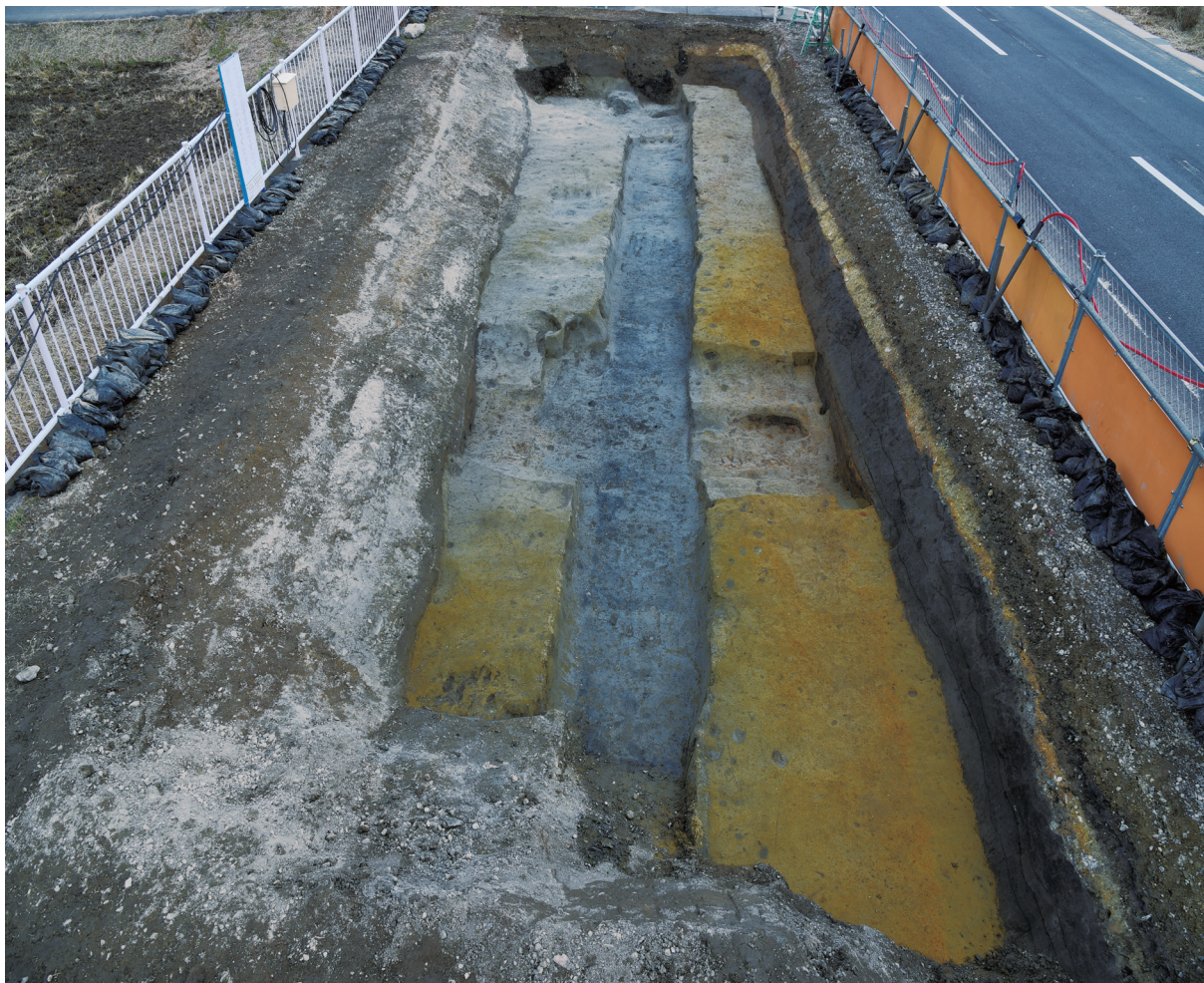
Ea 区南壁セクション (北西より)



Ea 区南壁セクション (北東より)



Eb 完掘状況 (真上より)



Eb 区完掘状況（西より）



Eb 区完掘状況（東より）



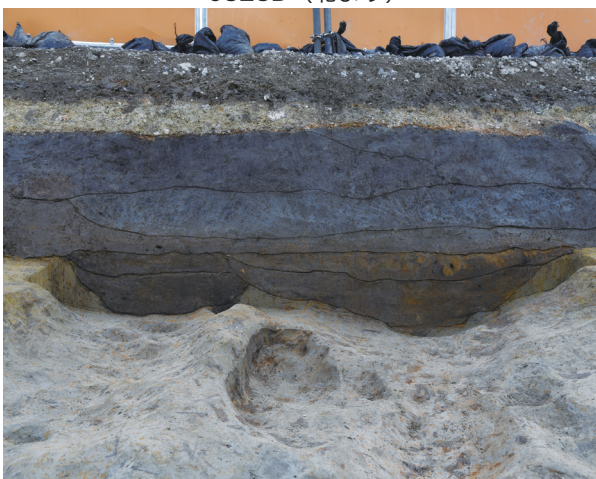
Eb 区完掘状況 (北より)



032SD (北より)



032SD (南より)



032SD 南壁セクション (北より)



032SD 遺物出土状況 (南より)



032SD 遺物出土状況 (北より)



Eb 南壁セクション (北西より)



Eb 南壁セクション (北東より)



F区東半完掘状況（東より）



F区東半完掘状況（北西より）



F区西半完掘状況（北より）



035SD（北西より）



036SD（北西より）



037SD（南より）



037SD（北より）



G区完掘状況（東より）



G区完掘状況（西より）



037SD 南壁セクション (北より)



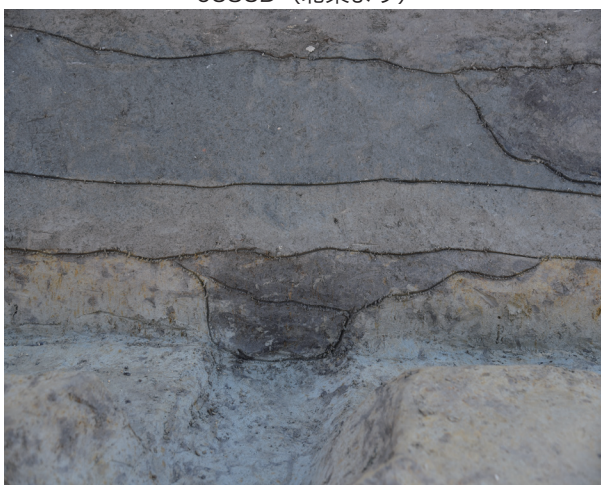
038SD (南西より)



038SD (北東より)



038SD 遺物出土状況 (南西より)



038SD 南壁セクション (北より)



039SD (北より)



042SD (北より)



042SD 北壁セクション (南より)





報告書抄録

ふりがな	そばたいせき							
書名	蕎麦田遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第238集							
編著者名	酒井俊彦							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	2026年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′	調査期間	m ²	調査原因
そばたいせき 蕎麦田遺跡	いわくらしだいちょうそばた 岩倉市大地町蕎麦田	232289	110056	35° 16′ 31″	136° 51′ 45″	20231001 ～ 20240131	1098	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
蕎麦田遺跡	集落遺跡	古墳時代・古代		溝		土師器		
				土坑		須恵器		
						灰釉陶器		
文書番号	遺跡名	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財 保管証	埋蔵文化財 認定	
	蕎麦田遺跡	5埋セ72 5.9.6	5文芸1053 5.9.25	5埋セ122 6.2.8	5埋セ122 6.2.8	5埋セ122 6.2.8	5文芸1943-1 6.2.22	
要約	蕎麦田遺跡は愛知県の尾張平野に所在する遺跡であり、五条川右岸に立地する。本遺跡は県道春日井一宮線工事に伴う試掘調査で確認された。周辺には大地遺跡、西北出遺跡などよく知られた遺跡が存在する。今回の調査では古墳時代から近世までの遺構・遺物が確認された。古墳時代の遺構・遺物としては溝と土坑が確認され、古墳時代土師器が出土した。古代の遺構・遺物は溝とこれに伴う灰釉陶器、須恵器などが確認された。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第238集

蕎麦田遺跡

2026年3月31日

編集・発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社